



## データリカバリー (Win 版) 製品ガイド

データリカバリー (Win 版) は、[ウィザードモード](#) と [標準モード](#) の2つの復元モードに分けられています。

製品ガイドの前に、まずは製品の[ダウンロード方法](#)、[インストール方法](#)、[登録方法](#)について説明いたします。

### 1. 製品のダウンロード

- 1) 製品ページにある「無料体験」ボタンをクリックします。
- 2) PC に製品の保存場所を選択します。
- 3) 製品のダウンロードを開始します。



[先頭へ](#)

### 2. 製品のインストール

- 1) exe ファイルをダブルクリックします。
- 2) 製品言語を選択します。
- 3) エンドユーザー使用許諾契約書を同意します。
- 4) インストール先を指定します。
- 5) 製品のインストールを開始します。



[先頭へ](#)

### 3. 製品の登録

各製品は、画面が異なりますが、「メニュー」設定の位置はほとんど一定しています。「メニュー」設定をクリックしますと、「購入」、「登録」や「設定」などの操作が行われます。

まずは製品のアイコンをダブルクリックして、製品を起動します。それから製品を登録します。

「メニュー」設定は、製品のメイン画面の右上にあります。



- 1) 「メニュー」ボタンをクリックします。

- 2) 「登録」をクリックします。
- 3) 電子メールで送信された「製品登録情報」を入力します。  
電子メールを「Eメールアドレス」に入力します。  
登録コードを「登録コード」に入力します。

**\* ご登録に関する注意事項 :**

登録メールのメールアドレスや登録コードなどの情報をコピー&ペーストする際には、スペースがないことをご確認お願いいたします。

ほかご登録時に何かご問題がありましたら、弊社サポートセンター  
<http://www.wondershare.jp/support.html>  
までご参照をお願いいたします。

- 4) 「登録」ボタンをクリックします。
- 5) 登録完了。製品のすべての機能を利用できるようになります。



[先頭へ](#)

「データリカバリー（Win版）」使用上のご注意：上書きされる可能性がありますため、データが紛失したディスクにはデータリカバリーをインストールしないでください。

## ウィザードモードでのデータ復元

[Step1: モード選択](#)

[Step2: ファイルタイプ選択](#)

[Step3: 場所を確認](#)

[Step4: 検索を開始](#)

[Step5: ファイル復元](#)

Step 1. ウィザードモードリカバリーを選択

プログラムを起動後、ウィザードモードになります。「次へ」をクリックして、2つの簡単な質問にお答えください。その後、プログラムは残りの操作を行ってくれます。



\* 「ウィザードモード」を使用したくない場合は、左下にあるヒントに従って、「標準モード」に進んでください。

同じく左下にある「起動時にこのウィザードを表示しません。」にチェックを入れると、次回プログラム起動時に、「ウィザードモード」の代わりに、自動的に「標準モード」に入ります。

[先頭へ](#)

## Step 2. 復元したいファイルタイプを選択

一番目の質問は「どのようなファイルを復元しますか？」となります。ファイルタイプを確認し、復元したいファイルをチェックしてください。様々な種類のファイルを復元しようとする場合は、「全てのファイル形式」をチェックしてください。ファイルの種類には、下記が含まれています。

写真/グラフィック（一般的な画像ファイル。例：デジタルカメラの写真。）

MP3/オーディオ（一般的なオーディオファイル。例：MP3、WMA。）

ビデオ（一般的なビデオファイル。例：デジタルカメラの録画。）

Office ドキュメント（一般的なドキュメント。例：ワード、エクセル、PDF ファイル）

Eメール（Outlook または Outlook Express からの一般的なメール。例：pst、dbx。）

全てのファイル形式（上記の全てのファイルおよびその他のファイルのスキャン）



[先頭へ](#)

### Step 3. 紛失したファイルの元の場所を確認

二番目の質問は「ファイルはどこに失われたのか？」となります。例えば、外付けのリムーバブルデバイス、ごみ箱、デスクトップとマイドキュメント、パーティションなど、具体的な場所が指定可能です。ファイルが失われた場所を忘れてしまった場合は、「忘れてしまいました」を選択してください。そうすると、コンピュータ全体がスキャンされます。

外付けのリムーバブルデバイス（リムーバブルデバイスのスキャン。例：iPod、デジタルカメラ、USB ドライブ。）

ごみ箱（ごみ箱から削除されたファイルを検索します。）

デスクトップとマイドキュメント（デスクトップ、マイドキュメントまたはライブラリーから削除されたファイルのスキャン。）

忘れてしまいました（コンピューター全体をスキャンします。）

パーティションが見つかりません（ハードディスクから失ったパーティションを検索しま

す。)



[先頭へ](#)

#### Step 4. 失われたファイルの検索を開始

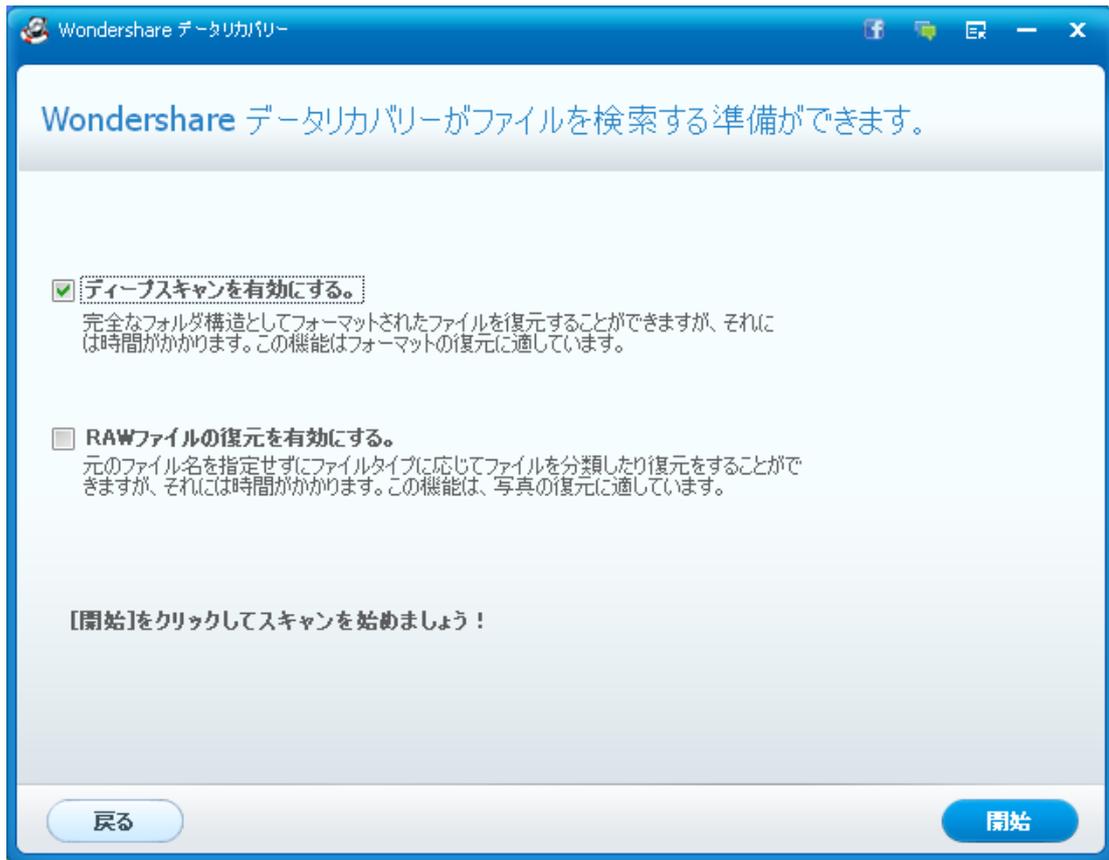
これで、ファイルを検索する準備ができています。

「ディープスキャン」と「RAW ファイルの復元」の2つの選択ができます。

「ディープスキャン」機能：完全なフォルダ構造としてフォーマットされたファイルを復元することができますが、それには時間がかかります。この機能はフォーマットの復元に適しています。

「RAW ファイルの復元」機能：元のファイル名を指定せずにファイルタイプに応じてファイルを分類したり復元をすることができますが、それには時間がかかります。この機能は、写真の復元に適しています。

ご要望によって復元機能を選択後、「開始」ボタンをクリックすると、失われたデータのスキャンが始まります。

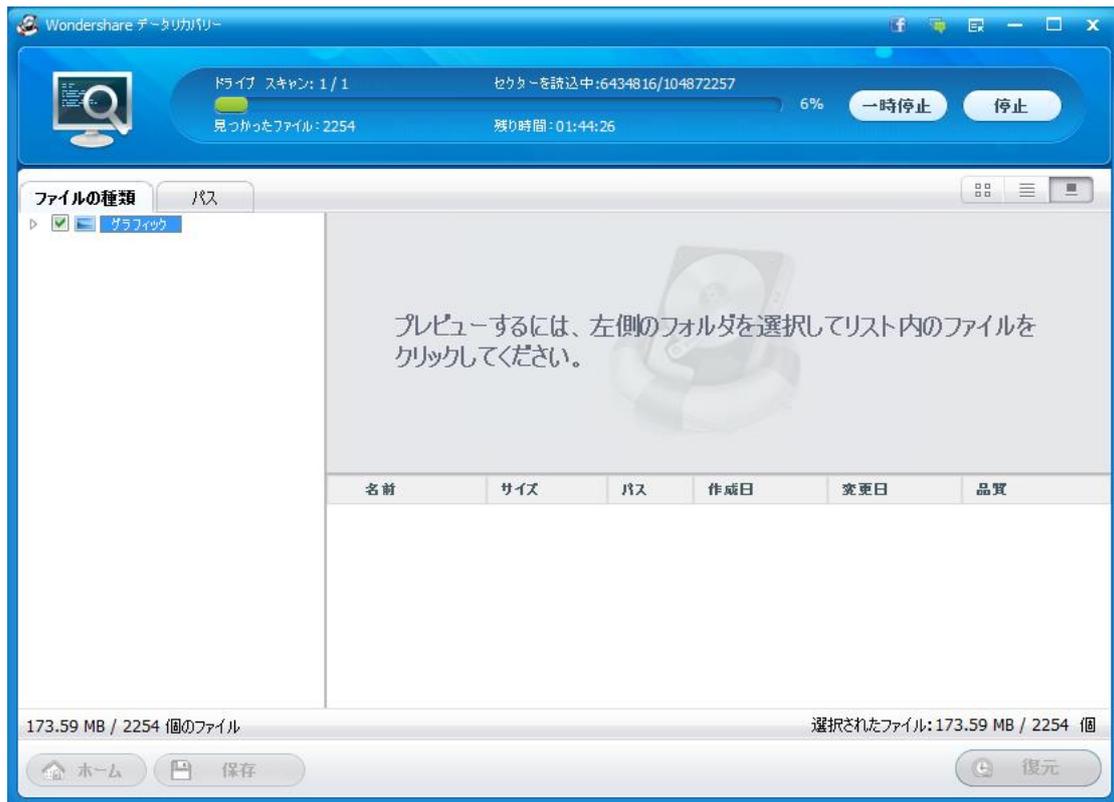


[先頭へ](#)

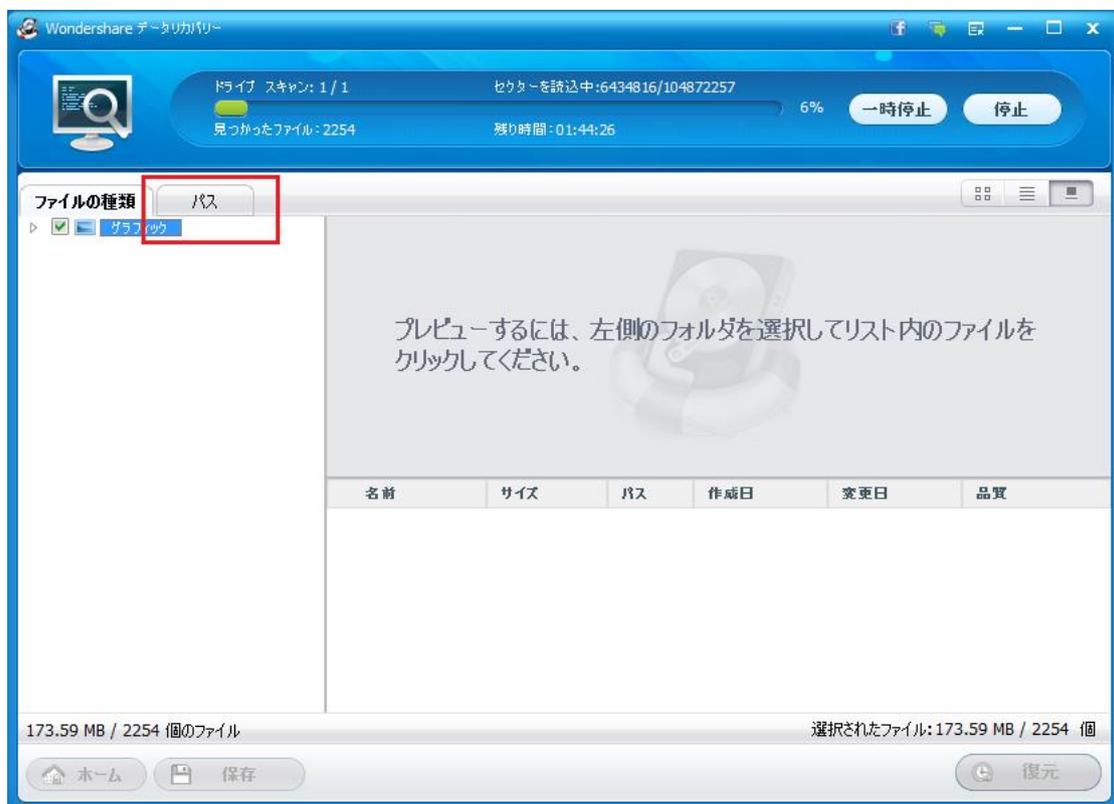
## Step 5. 失われたファイルのプレビューと復元

前回のステップで「全てのファイル形式」にチェックを入れた場合、スキャンの結果がアーカイブ、オーディオ、データベース、ドキュメント、Eメール、グラフィック、ビデオなどのファイルタイプの形で表示されます。プレビュー後、復元したいファイルを選択して復元してください。復元前に、PDF、PPT、RAR、ZIP、Excel 及び画像形式（PNG、JPG、JPEG、TIF など）がプレビュー可能です。

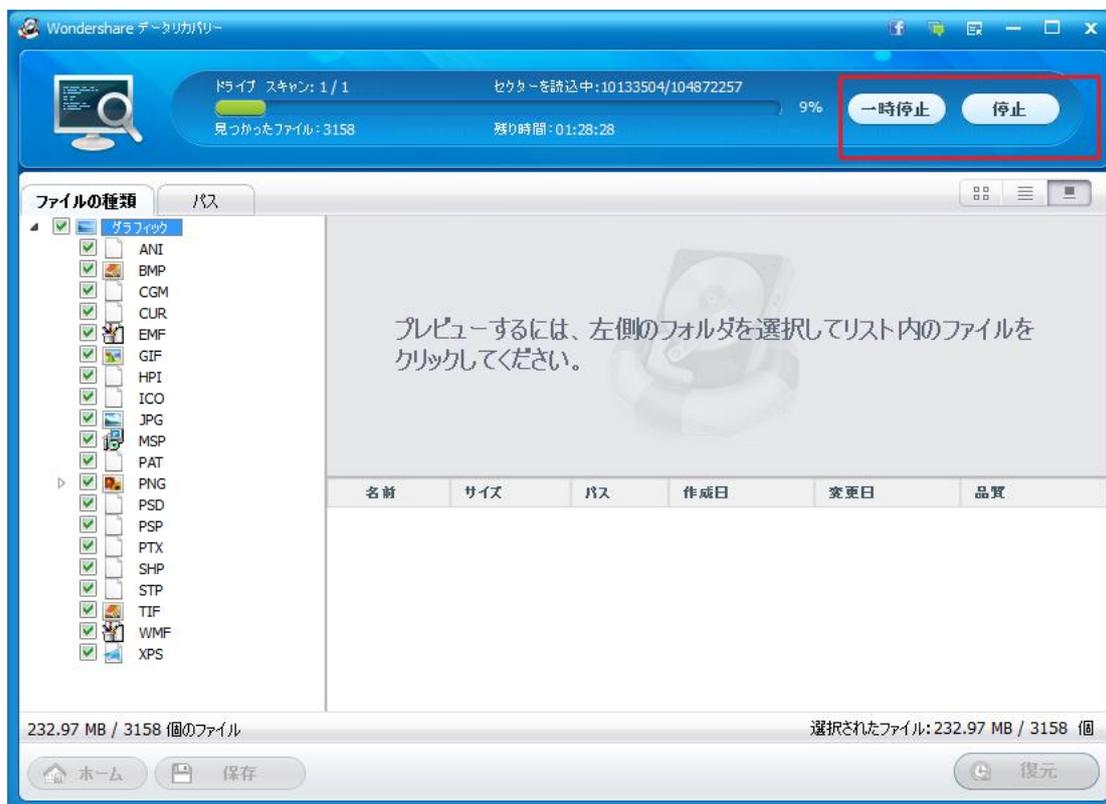
プレビューするには、左側のフォルダを選択してリスト内のファイルをクリックしてください。



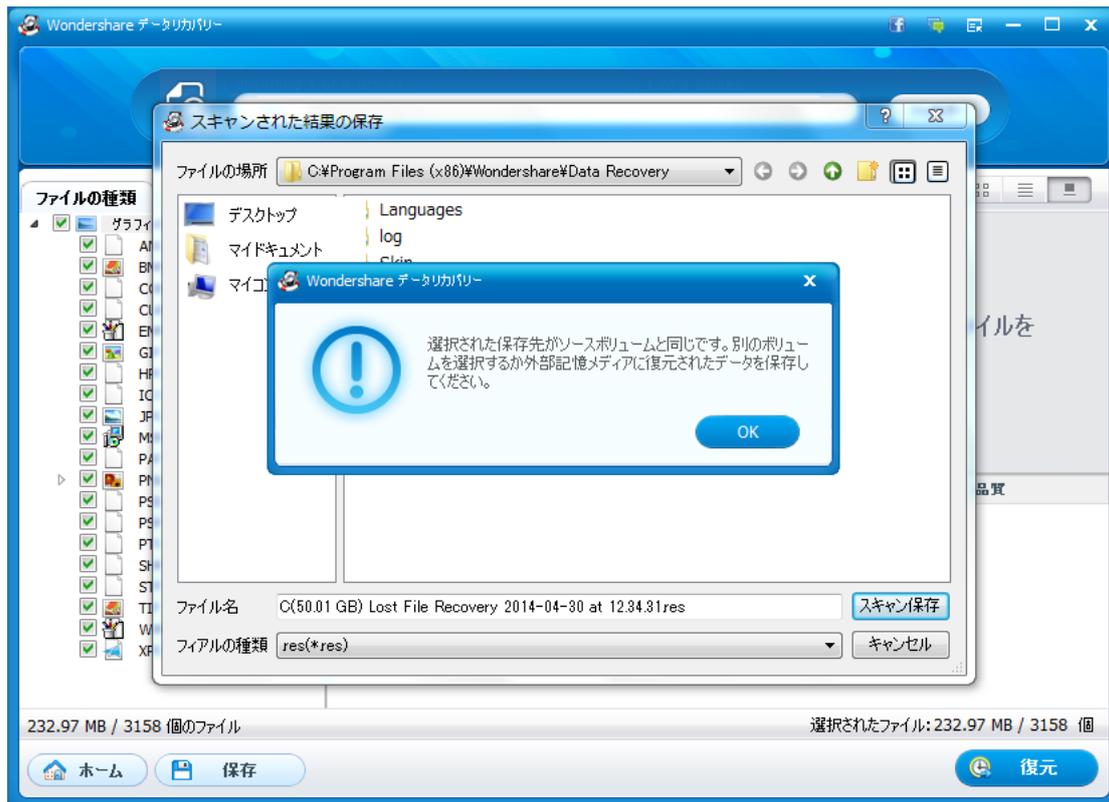
「ファイルの種類」から「パス」に切り替えることで、ファイルの前のパスをチェックすることができます。



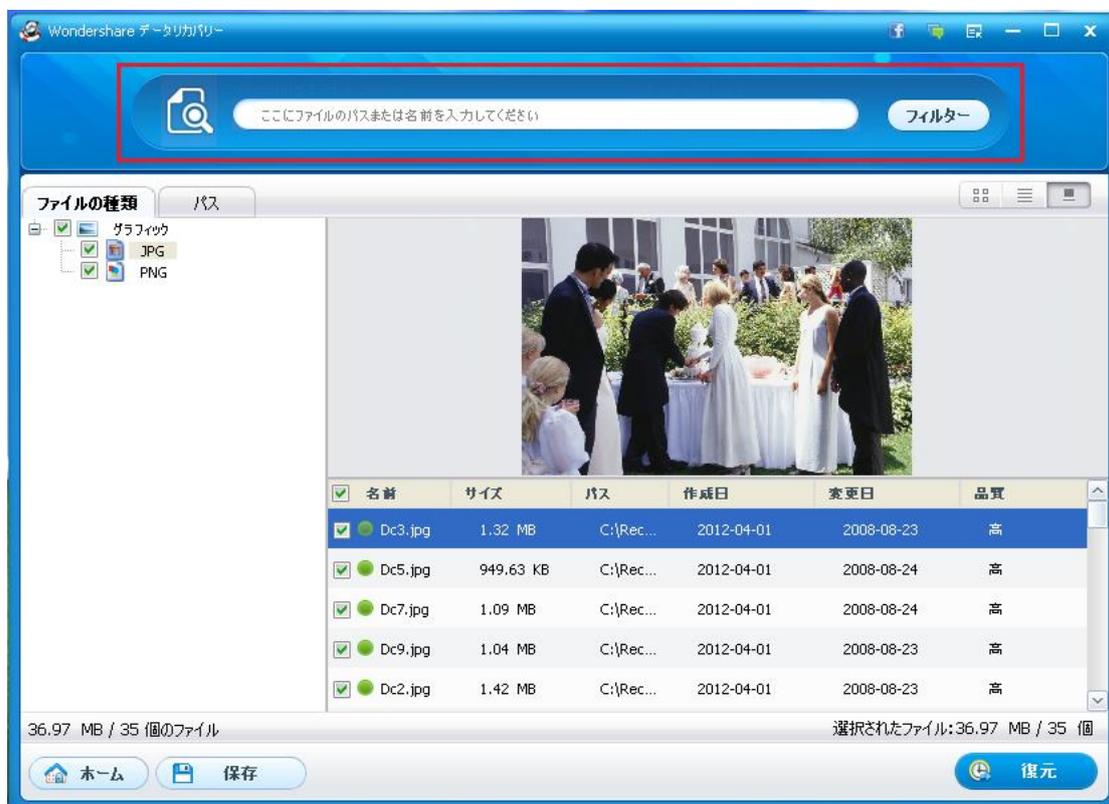
復元進行中に、ファイルをチェックすることができます。復元しようとするファイルが既に検出された場合、スキャンを一時停止して、それらのファイルをまず復元することができます。それから、「続く」を押してスキャンを進めるか、あるいは「停止」を押してスキャンを停止します。



スキャンを停止しても、後で復元を再開するためスキャン結果を保存することができます。

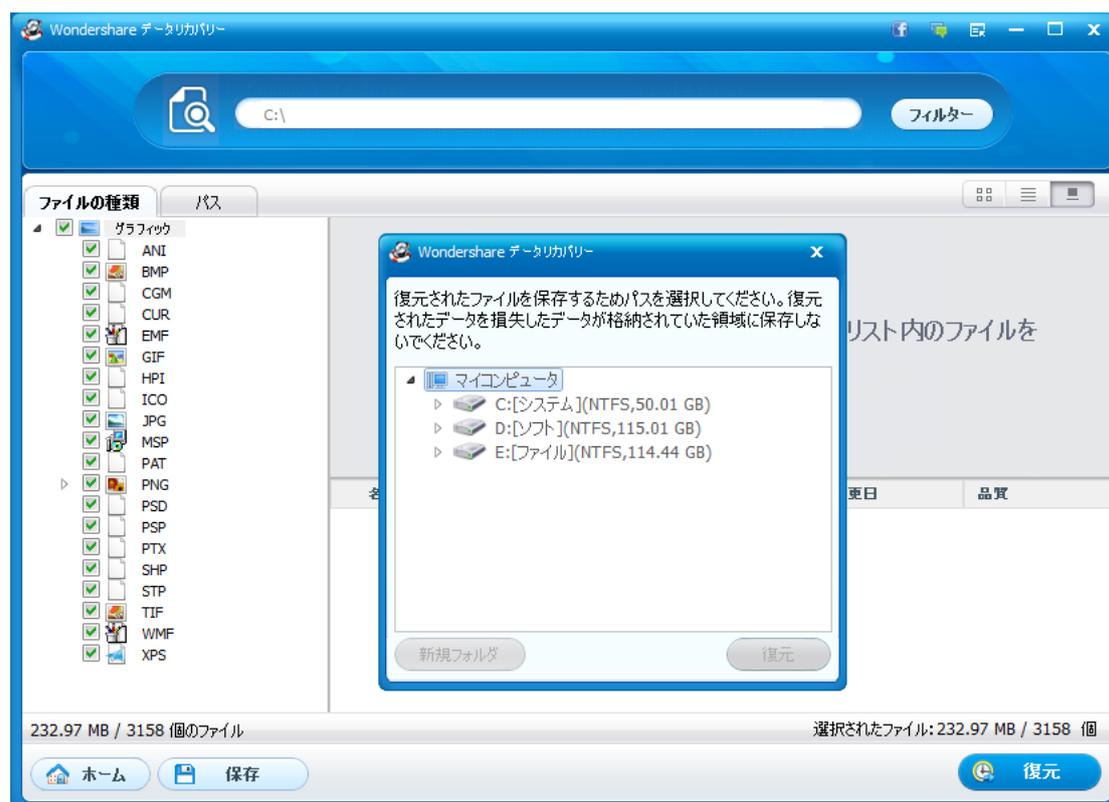


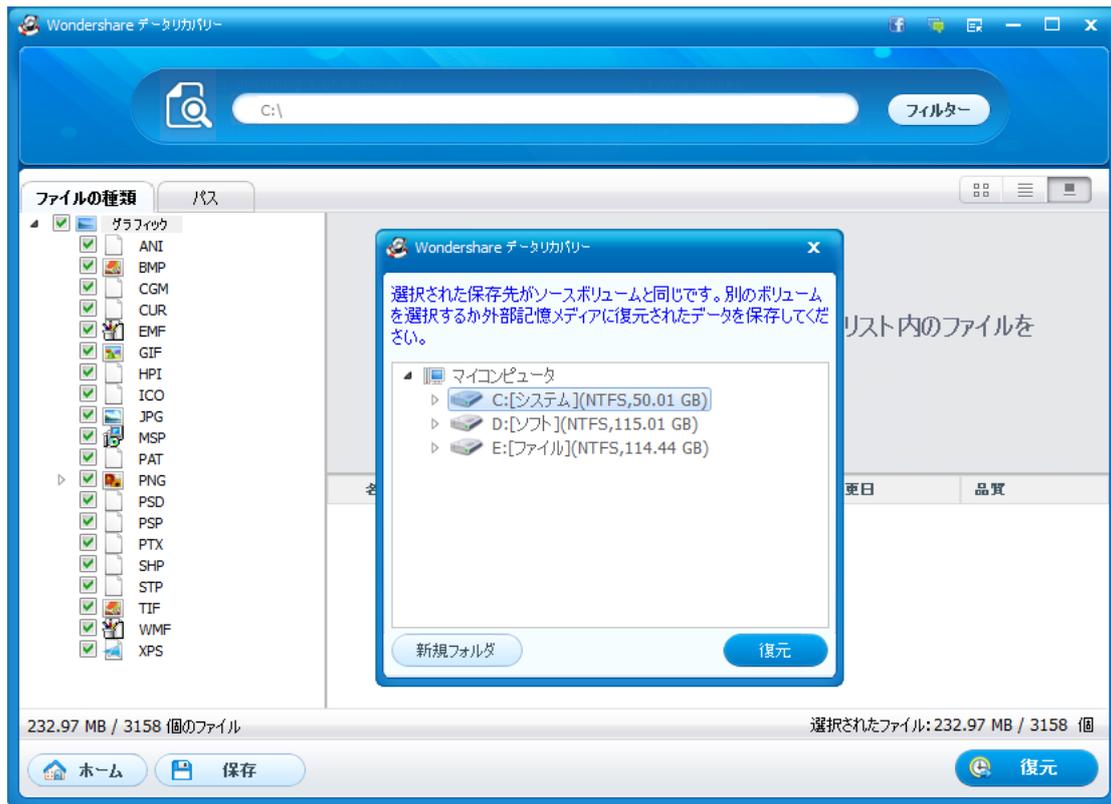
フィルター機能： ファイル名あるいはパスを検索することで、スキャンの結果にて失われたファイルをフィルターすることができます。



復元されたファイルを保存するためパスを選択してください。

注意: 復元されたデータを損失したデータが格納されていた領域に保存しないでください。その理由は、新規保存したファイルは元々のファイルデータを上書きすることにあります。選択された保存先がソースボリュームと同じ場合は、警告となります。別のボリュームを選択するか、外部記憶メディアに復元されたデータを保存してください。





復元進行中



## 標準モードでのデータ復元

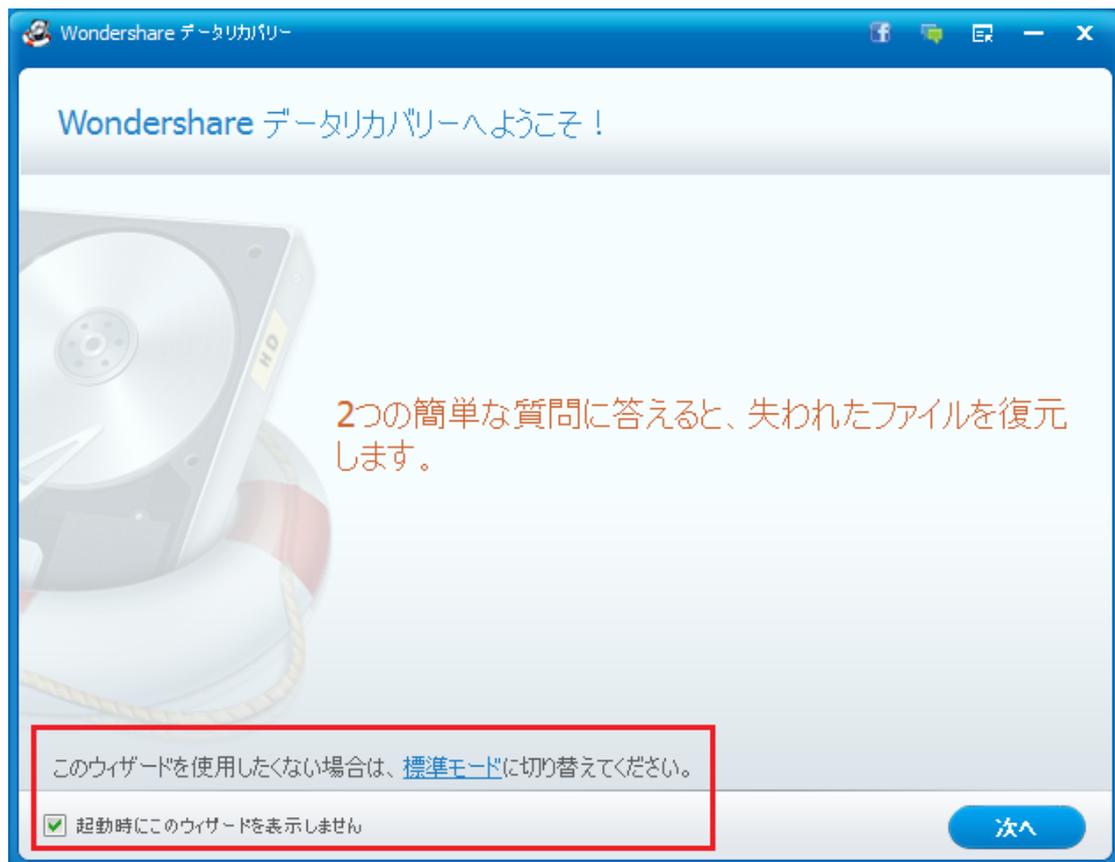
### [Step1: 標準モード復元を選択](#)

### [Step2: 復元の方法を選択](#)

#### Step 1. 標準モード復元を選択

プログラムを起動後、「ウィザードモード」になります。「ウィザードモード」画面の左下にあるヒントに従って、「標準モード」に進んでください。

同じく左下にある「起動時にこのウィザードを表示しません。」にチェックを入れると、次回プログラム起動時に、「ウィザードモード」の代わりに、自動的に「標準モード」に入ります。



「標準モード」では、「失われたファイルの復元」、「パーティションの復元」、「RAW ファイルの復元」及び「復元の再開」の四つの選択肢があります。

失われたファイルの復元:パーティションまたはリムーバブルメディアから削除されたファイルを復元します。例えば、Shift+Delete キーでまたはごみ箱から削除されたファイル。

パーティションの復元:復元が失敗した場合、データが削除されてしまった場合、リサイズしてしまった場合、HDDのパーティションが破損された場合などで削除されたファイルやフォルダを復元します。

RAW ファイルの復元:失われたファイルを前回のスキャンで見つけることができない場合は、「RAW ファイルの復元」を選択してください。しかし、それはファイル名とパスが表示されません。

復元の再開:前回のリカバリーセッションを再開するために、スキャンして保存された結果をインポートしてください。



[先頭へ](#)

## Step 2. 復元の方法を選択

[\\*失われたファイルの復元](#)

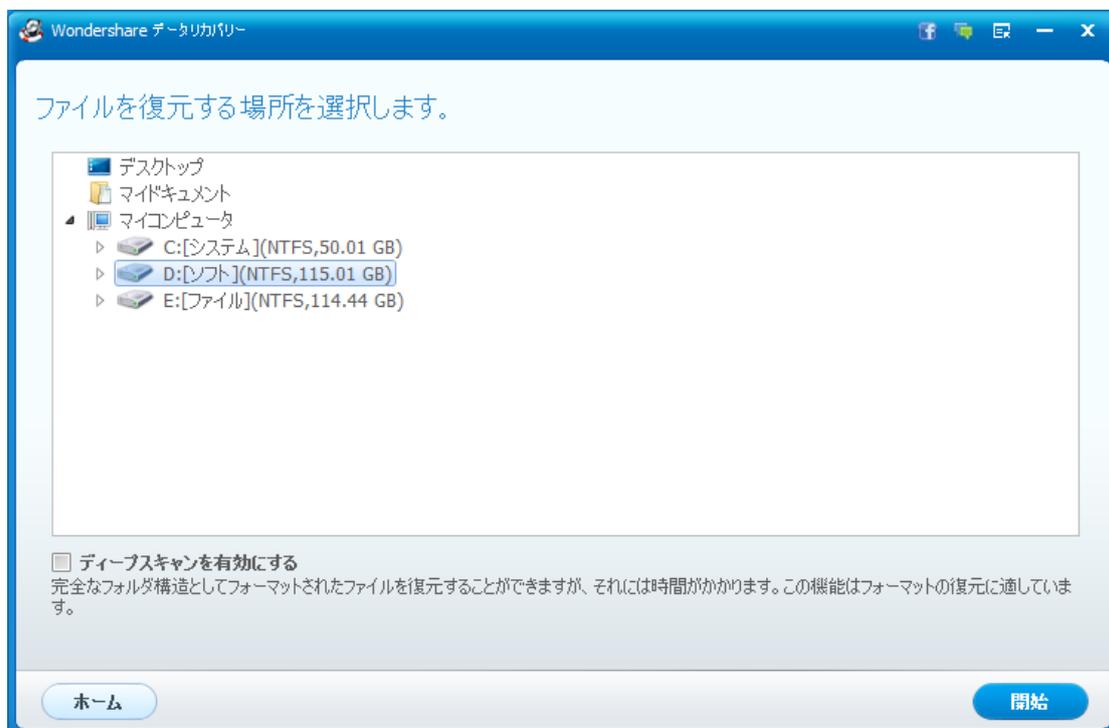
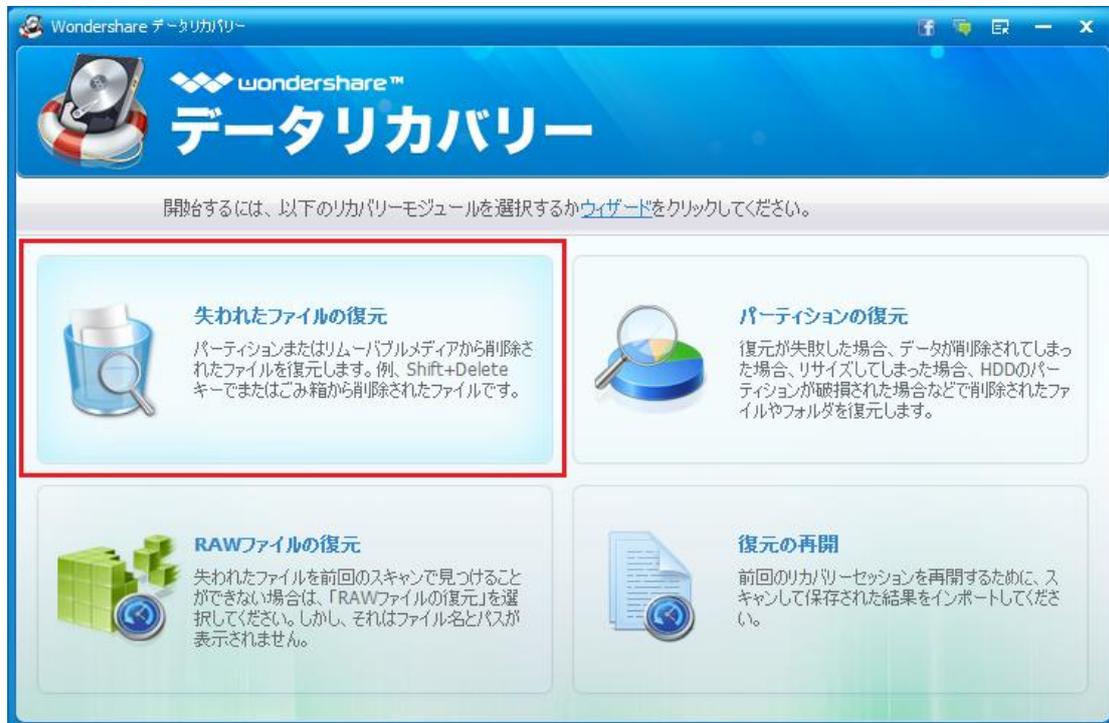
[\\*パーティションの復元](#)

[\\*Raw ファイルの復元](#)

[\\*復元の再開](#)

### 1、失われたファイルの復元

「失われたファイルの復元」はパーティションまたはリムーバブルメディアから削除されたファイル（Shift + Delete キーでまたはごみ箱から削除されたファイル）を復元します。



ディープスキャンを有効にする

完全なフォルダ構造としてフォーマットされたファイルを復元することができますが、それには時間がかかります。この機能はフォーマットの復元に通じています。

ホーム

開始

**\* ディープスキャンを有効にする**

このオプションにチェックを入れると、ディープスキャン機能を有効にします。完全なフォルダ構造としてフォーマットされたファイルを復元することができますが、それには時間がかかります。この機能はフォーマットの復元に適しています。

「ディープスキャンを有効にする」にチェックを入れた後、スキャンしたいファイルシステムも選択可能となります。

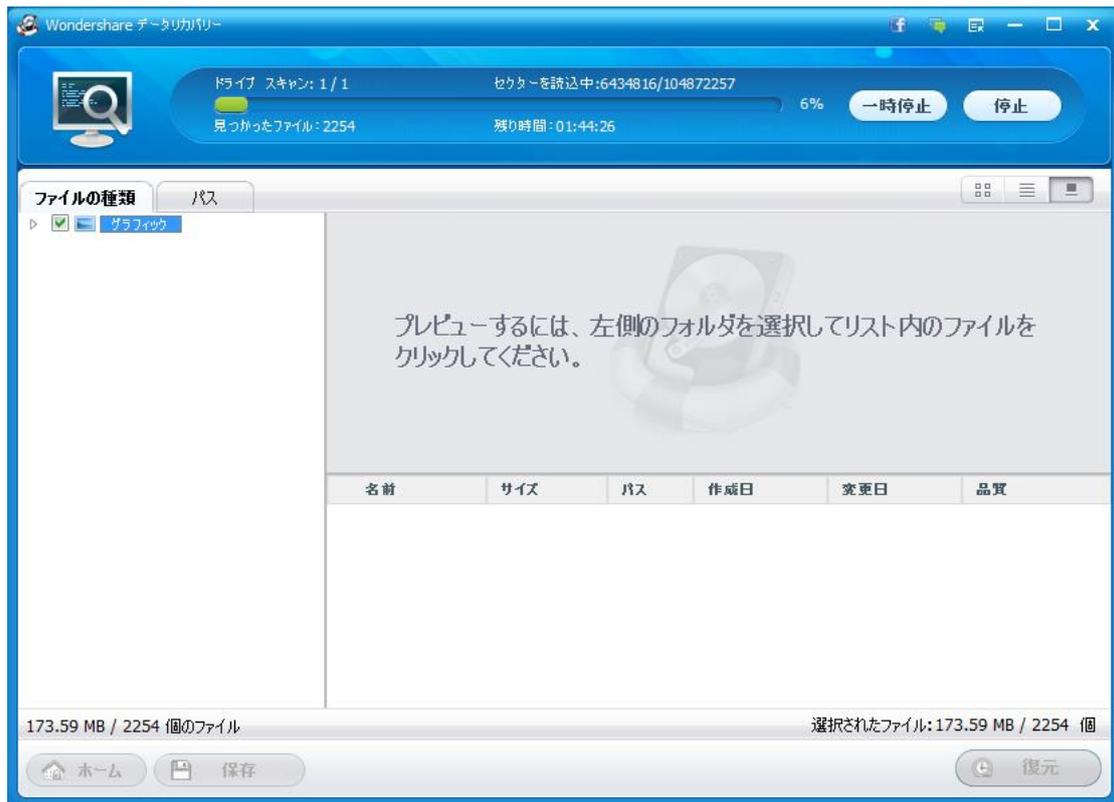
ファイルシステムには「自動（推奨）」、NTFS、FAT32、FAT16 の四つの選択肢があります。



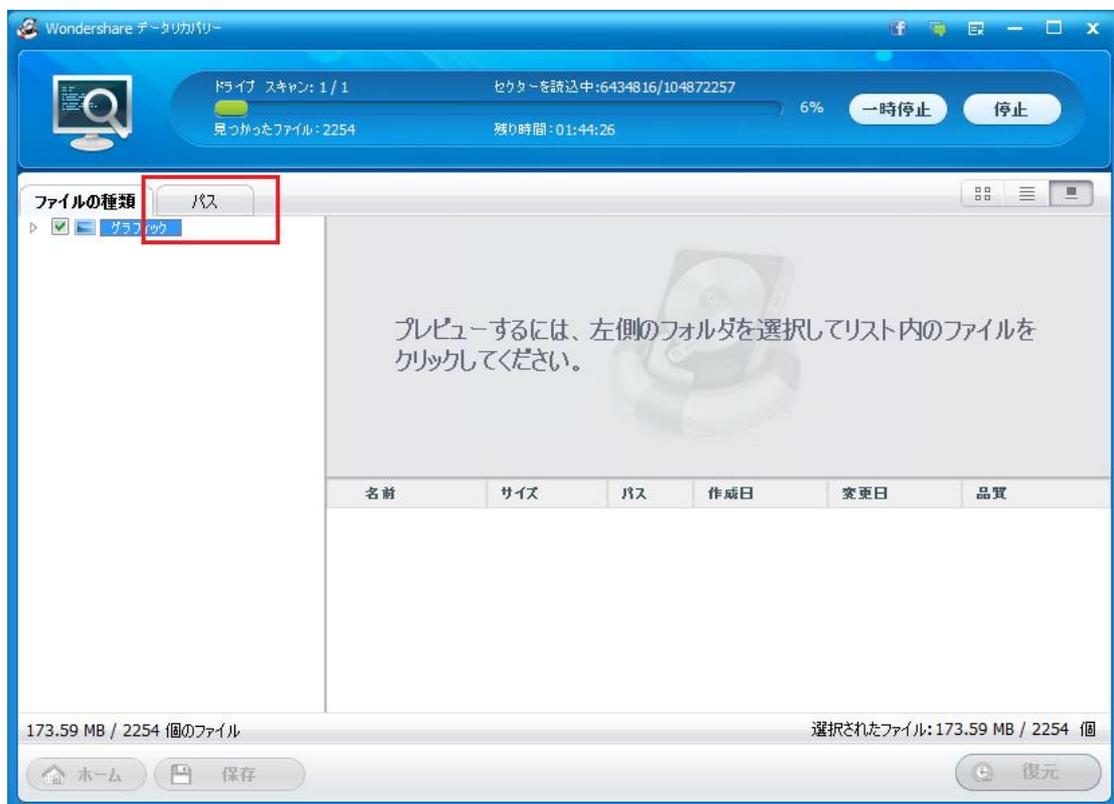
削除されたファイルが保存されていたディスクまたはフォルダーを選択して、「開始」をクリックしてファイルをスキャンし復元してください。

スキャンの結果がアーカイブ、オーディオ、データベース、ドキュメント、Eメール、グラフィック、ビデオなどのファイルタイプの形で表示されます。プレビュー後、復元したいファイルを選択して復元してください。復元前に、PDF、PPT、RAR、ZIP、Excel 及び画像形式（PNG、JPG、JPEG、TIF など）がプレビュー可能です。

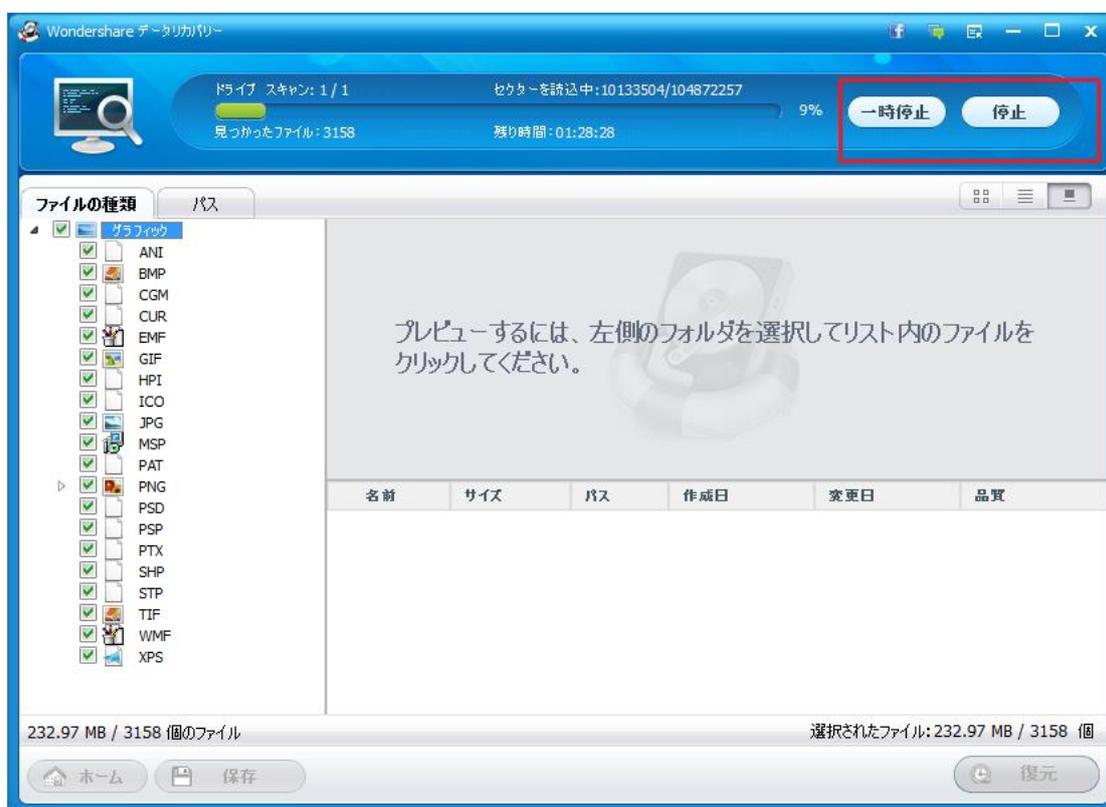
プレビューするには、左側のフォルダを選択してリスト内のファイルをクリックしてください。



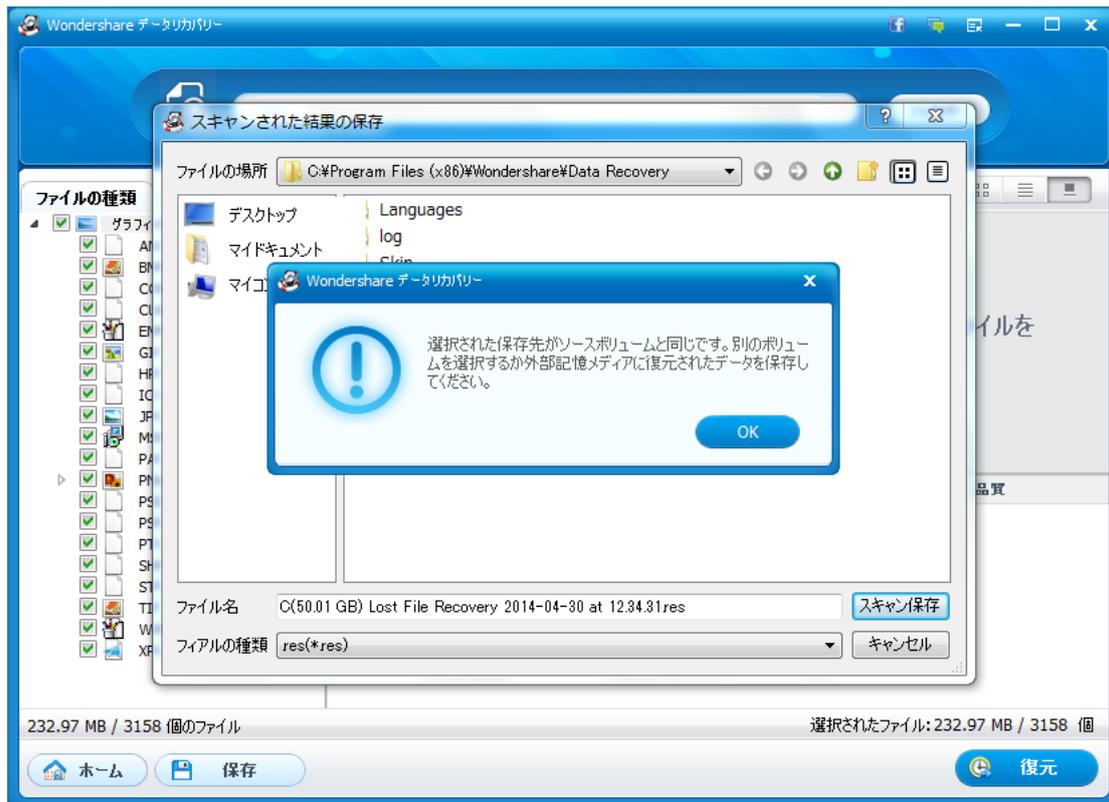
「ファイルの種類」から「パス」に切り替えることで、ファイルの前のパスをチェックすることができます。



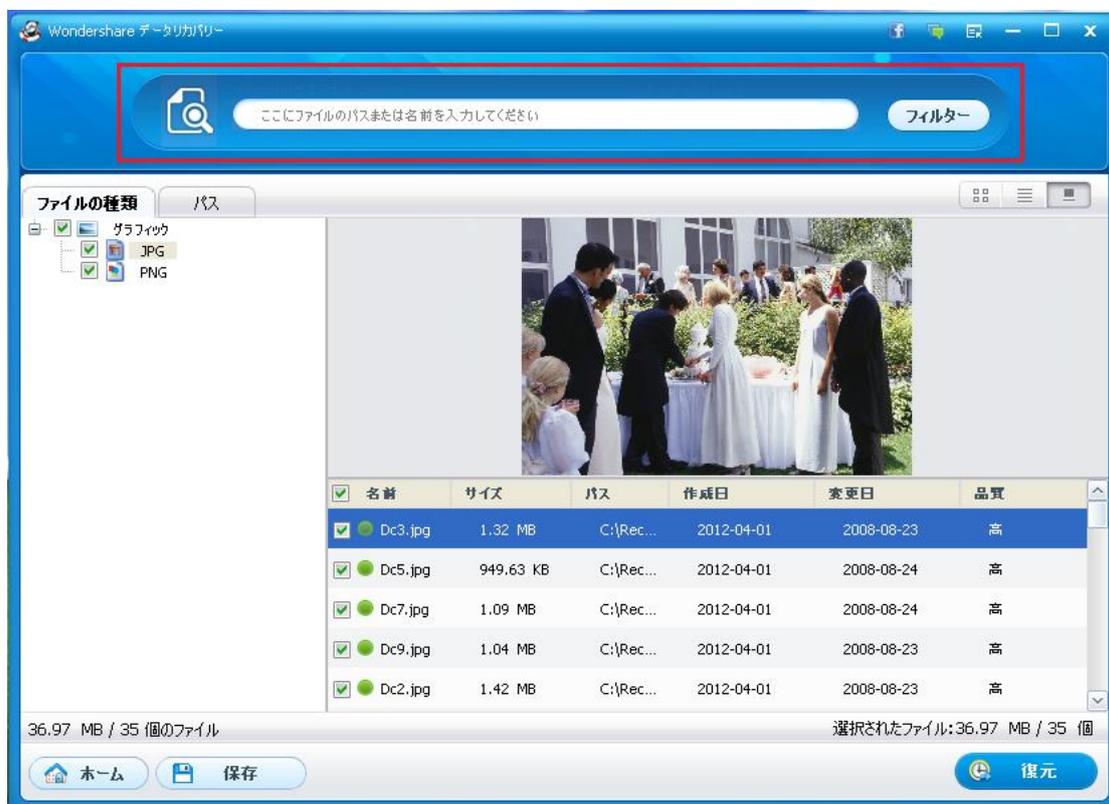
復元進行中に、ファイルをチェックすることができます。復元しようとするファイルが既に検出された場合、スキャンを一時停止して、それらのファイルをまず復元することができます。それから、「続く」を押してスキャンを進めるか、あるいは「停止」を押してスキャンを停止します。



スキャンを停止しても、後で復元を再開するためスキャン結果を保存することができます。

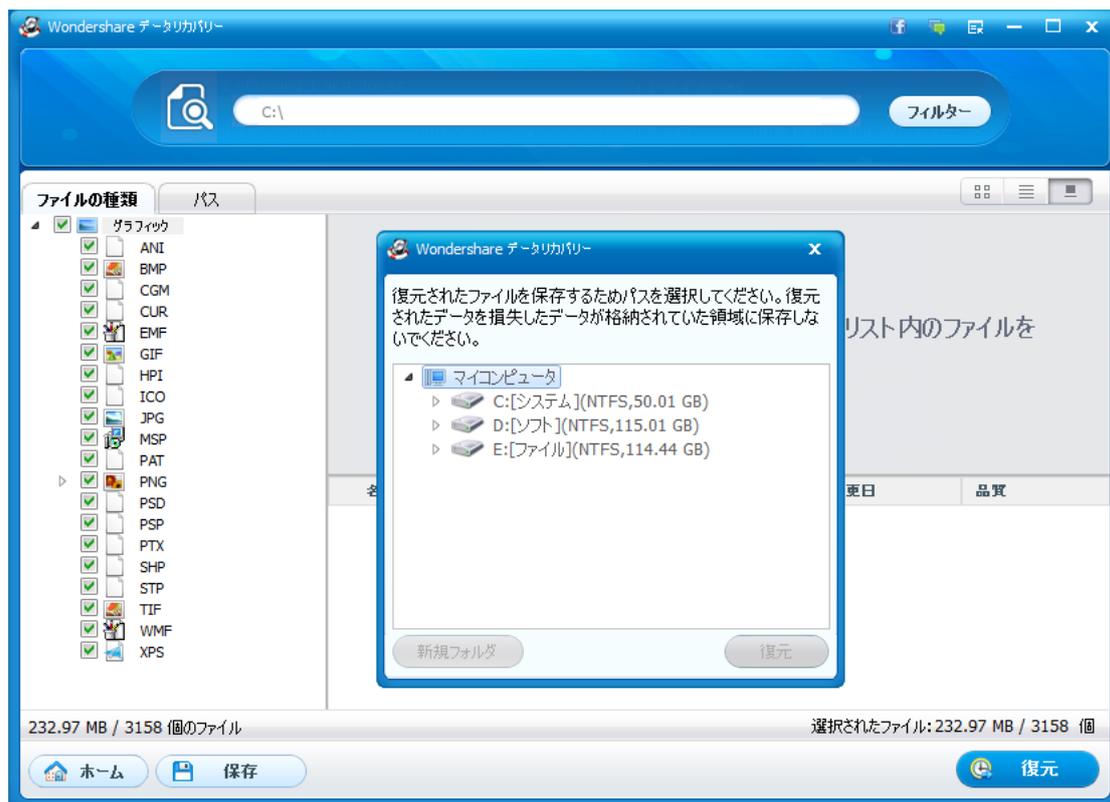


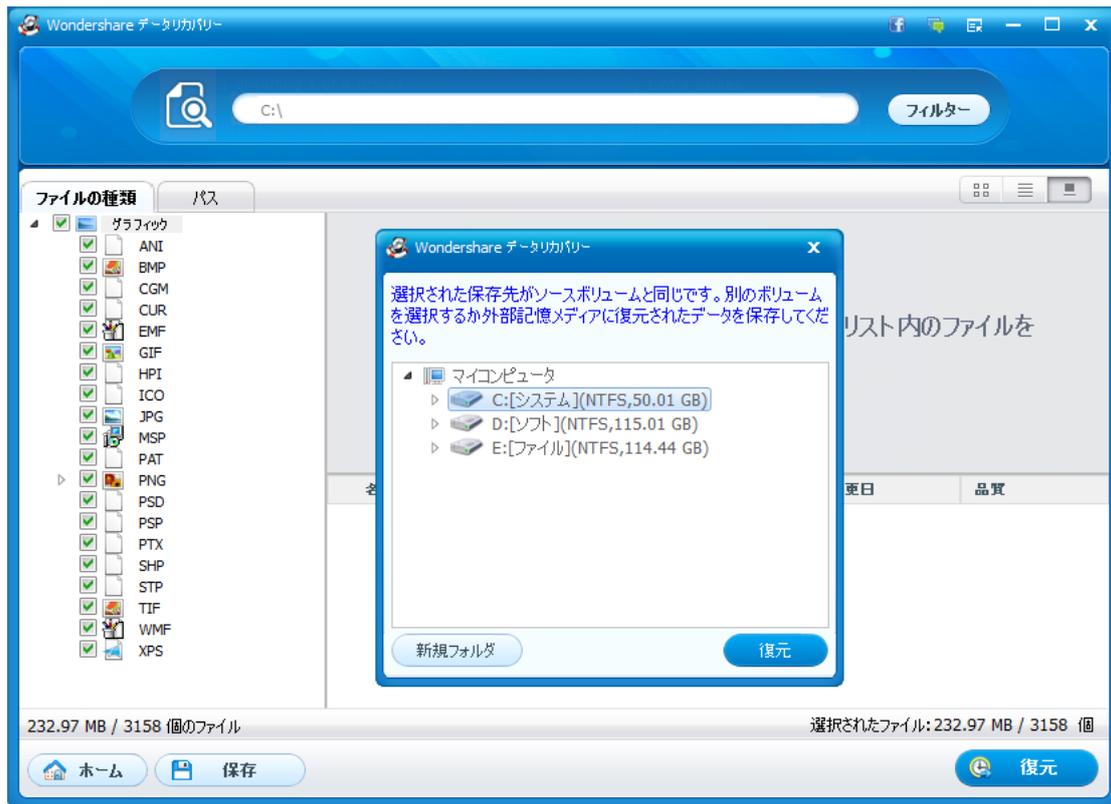
フィルター機能： ファイル名あるいはパスを検索することで、スキャンの結果にて失われたファイルをフィルターすることができます。



復元されたファイルを保存するためパスを選択してください。

注意: 復元されたデータを損失したデータが格納されていた領域に保存しないでください。その理由は、新規保存したファイルは元々のファイルデータを上書きすることにあります。選択された保存先がソースボリュームと同じ場合は、警告となります。別のボリュームを選択するか、外部記憶メディアに復元されたデータを保存してください。





復元進行中



[先頭へ](#)

## 2、パーティションの復元

「パーティションの復元」は、復元が失敗した場合、データが削除されてしまった場合、リサイズしてしまった場合、HDDのパーティションが破損された場合などで削除されたファイルやフォルダを復元します。



壊れたパーティションの方のディスクを選択して、「次へ」をクリックしてください。



\* 「クイックスキャンを有効にする」にチェックを入れると、パーティションは迅速にスキャンされ、スキャン時間を短縮します。そうしないと、パーティションは詳しくスキャンされ、スキャン完了まで時間がかかりかかります。

#### \* RAW ファイルの復元を有効にする

元のファイル名を指定せずにファイルタイプに応じてファイルを分類したり復元をすることができますが、それには時間がかかります。この機能は、写真の復元に適しています。「RAW ファイルの復元を有効にする」にチェックを入れた後、スキャンしたいファイルシステムも選択可能となります。

ファイルシステムには「自動（推奨）」、NTFS、FAT32、FAT16 の四つの選択肢がありません。

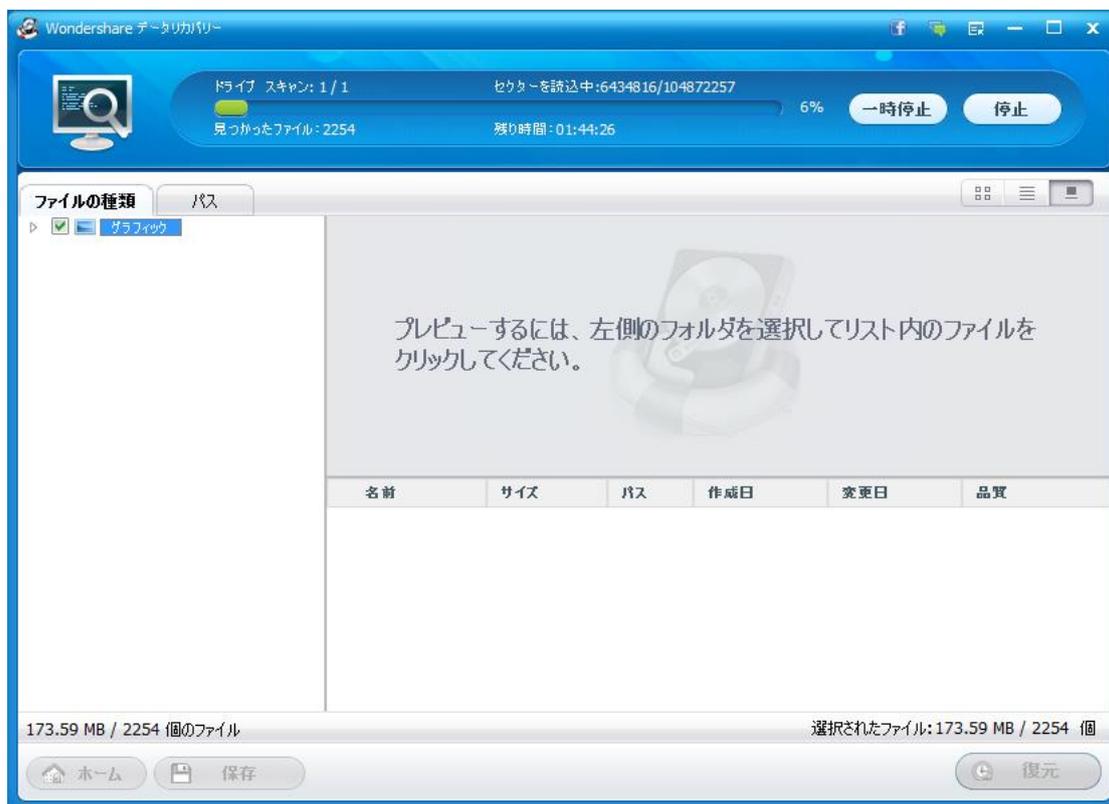


壊れたパーティションがあるドライブをスキャン後、復元しようとするパーティションを選択して、「開始」をクリックしてください。

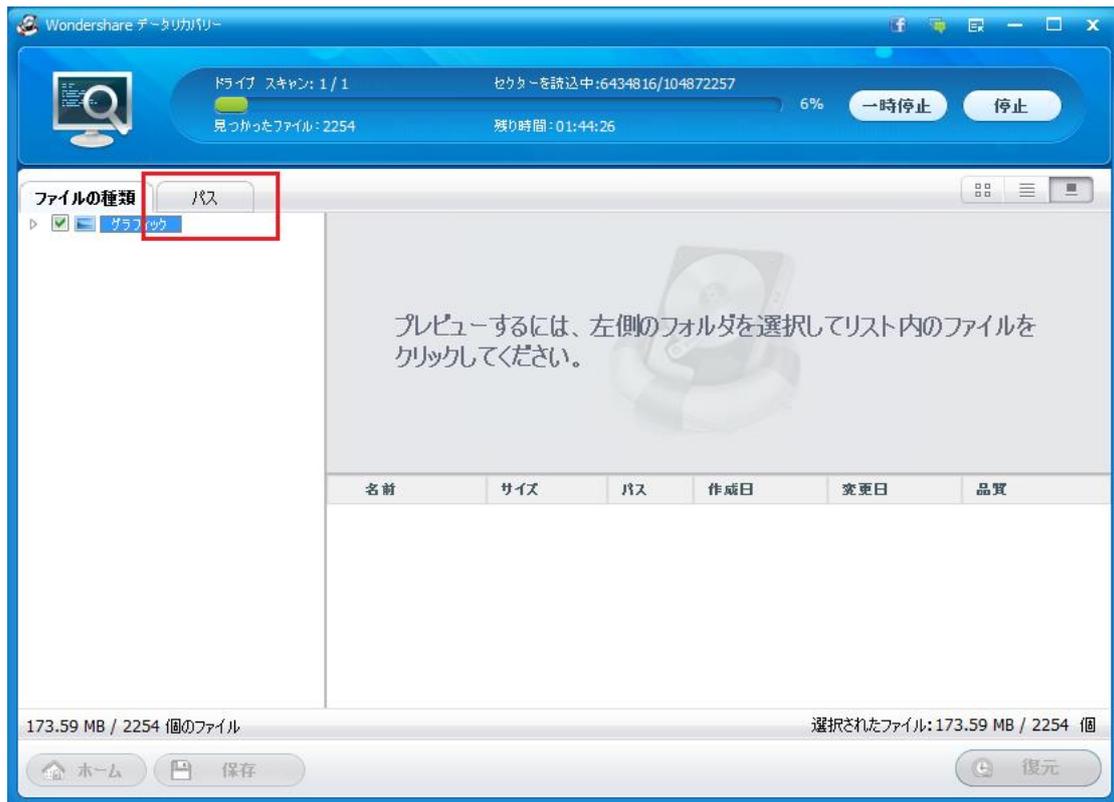
スキャンの結果がアーカイブ、オーディオ、データベース、ドキュメント、Eメール、

グラフィック、ビデオなどのファイルタイプの形で表示されます。プレビュー後、復元したいファイルを選択して復元してください。復元前に、PDF、PPT、RAR、ZIP、Excel 及び画像形式（PNG、JPG、JPEG、TIF など）がプレビュー可能です。

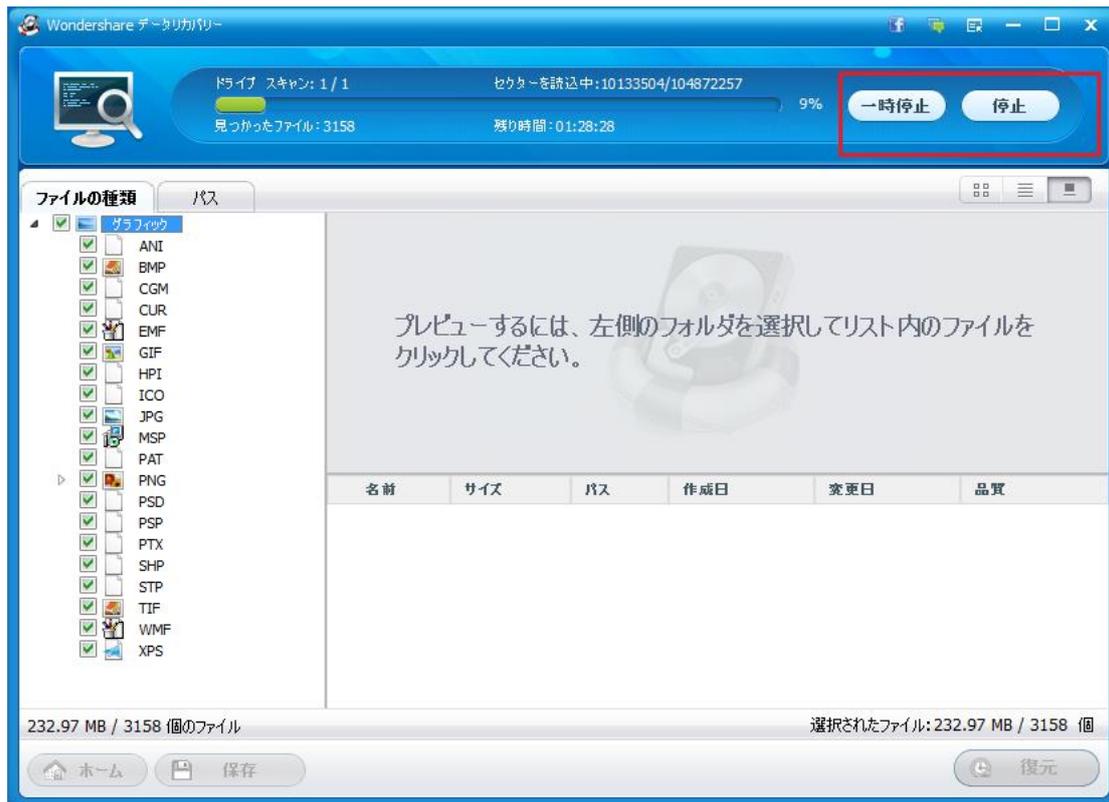
プレビューするには、左側のフォルダを選択してリスト内のファイルをクリックしてください。



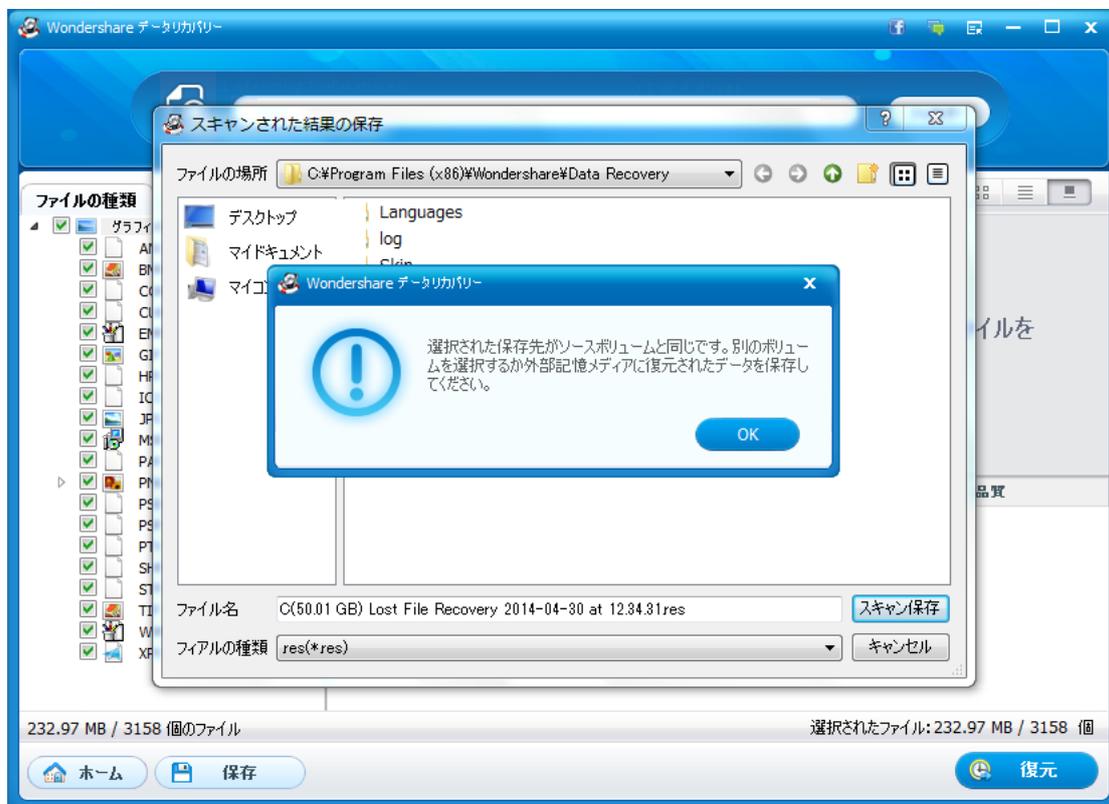
「ファイルの種類」から「パス」に切り替えることで、ファイルの前のパスをチェックすることができます。



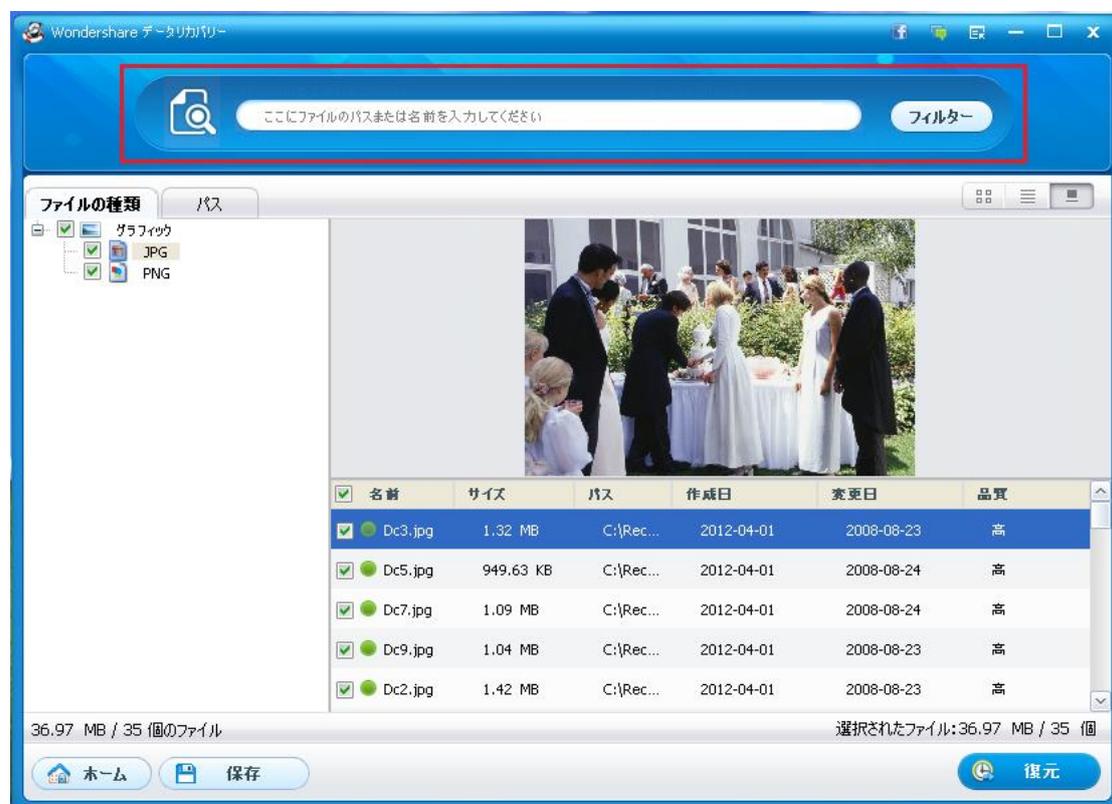
復元進行中に、ファイルをチェックすることができます。復元しようとするファイルが既に検出された場合、スキャンを一時停止して、それらのファイルをまず復元することができます。それから、「続く」を押してスキャンを進めるか、あるいは「停止」を押してスキャンを停止します。



スキャンを停止しても、後で復元を再開するためスキャン結果を保存することができます。

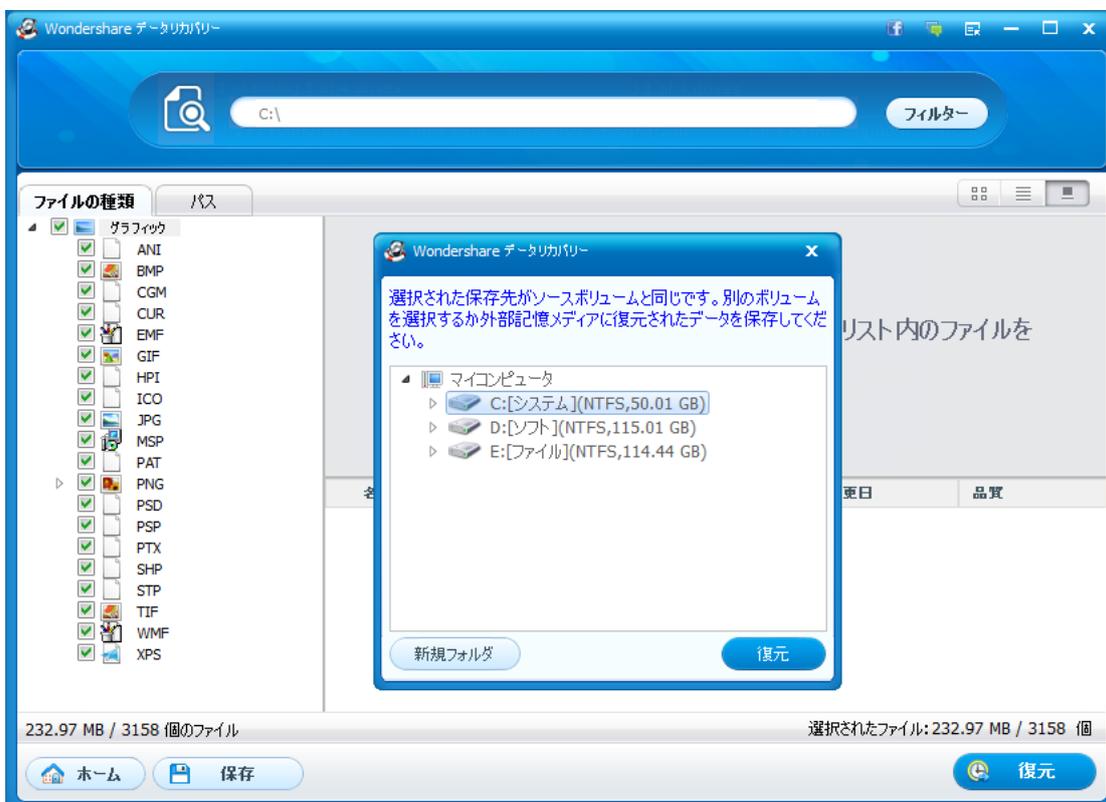
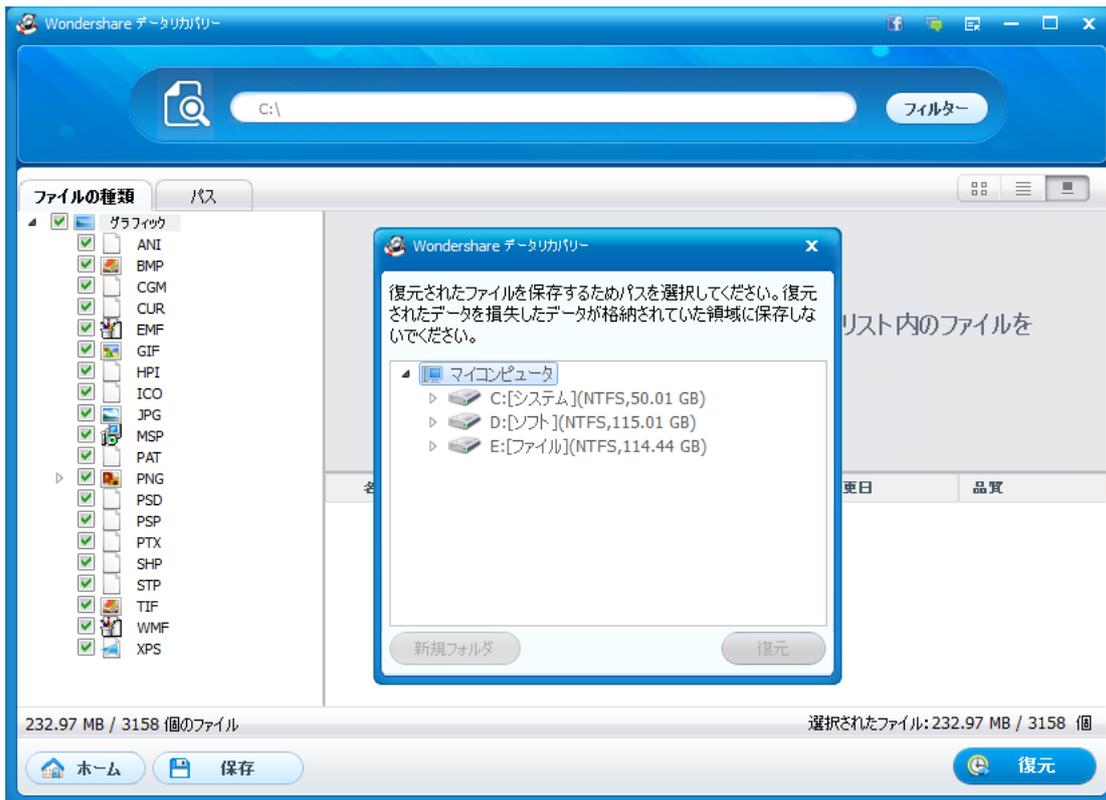


フィルター機能：ファイル名あるいはパスを検索することで、スキャンの結果にて失われたファイルをフィルターすることができます。



復元されたファイルを保存するためパスを選択してください。

注意：復元されたデータを損失したデータが格納されていた領域に保存しないでください。その理由は、新規保存したファイルは元々のファイルデータを上書きすることにあります。選択された保存先がソースボリュームと同じ場合は、警告となります。別のボリュームを選択するか、外部記憶メディアに復元されたデータを保存してください。



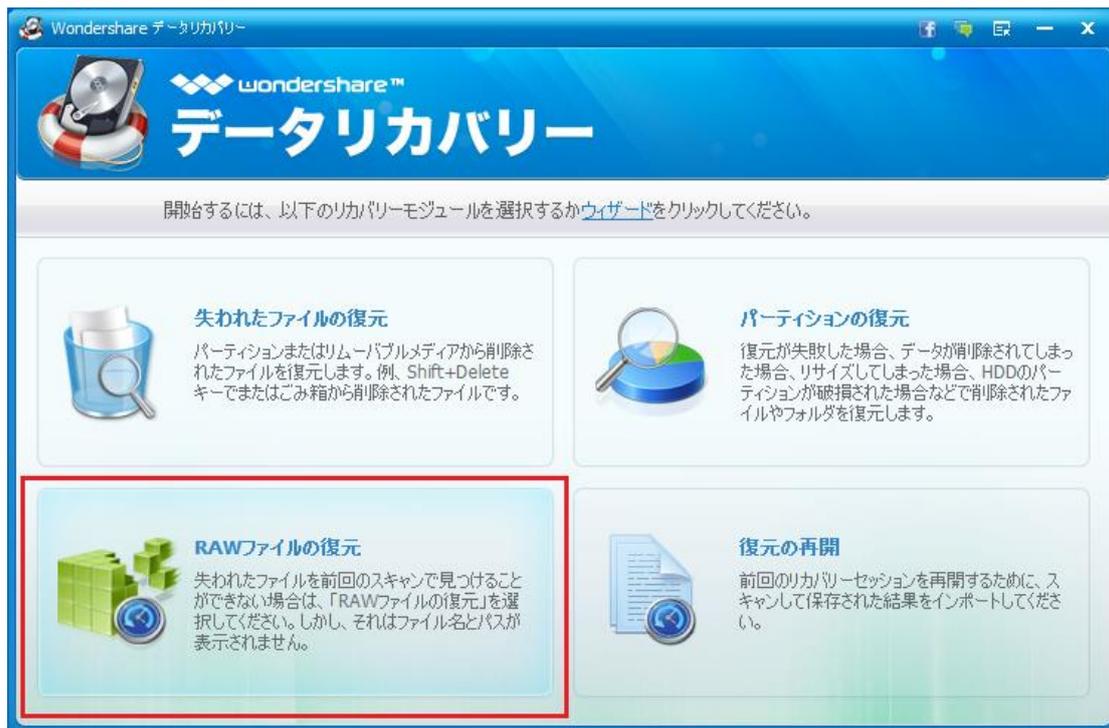
復元進行中



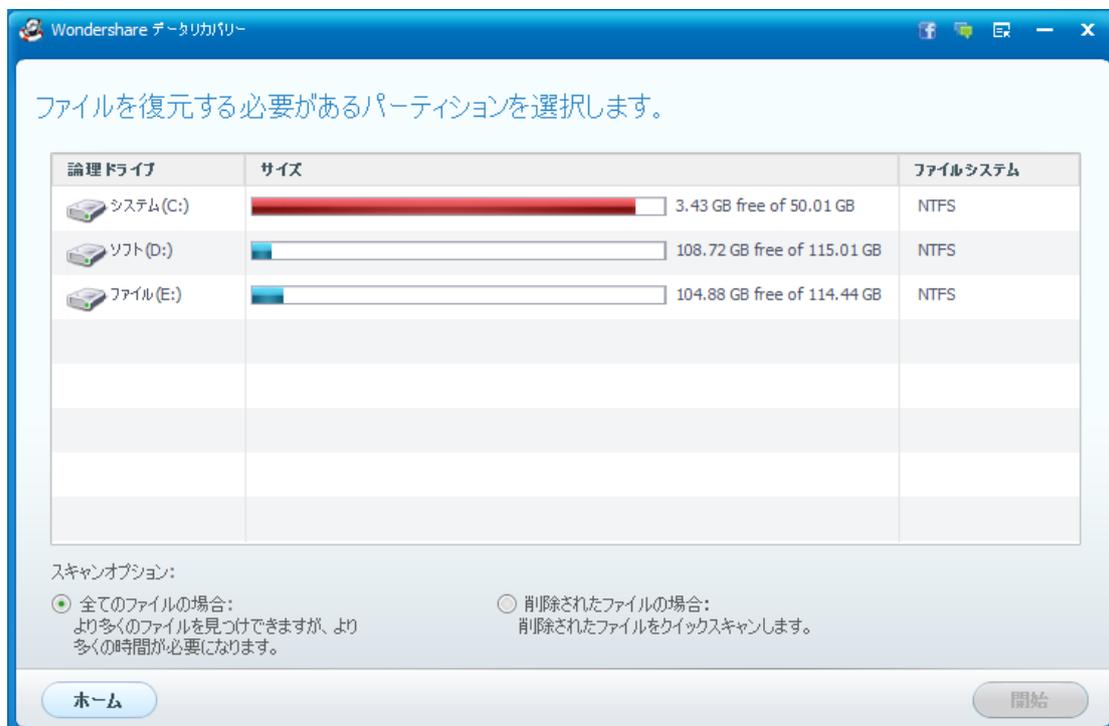
[先頭へ](#)

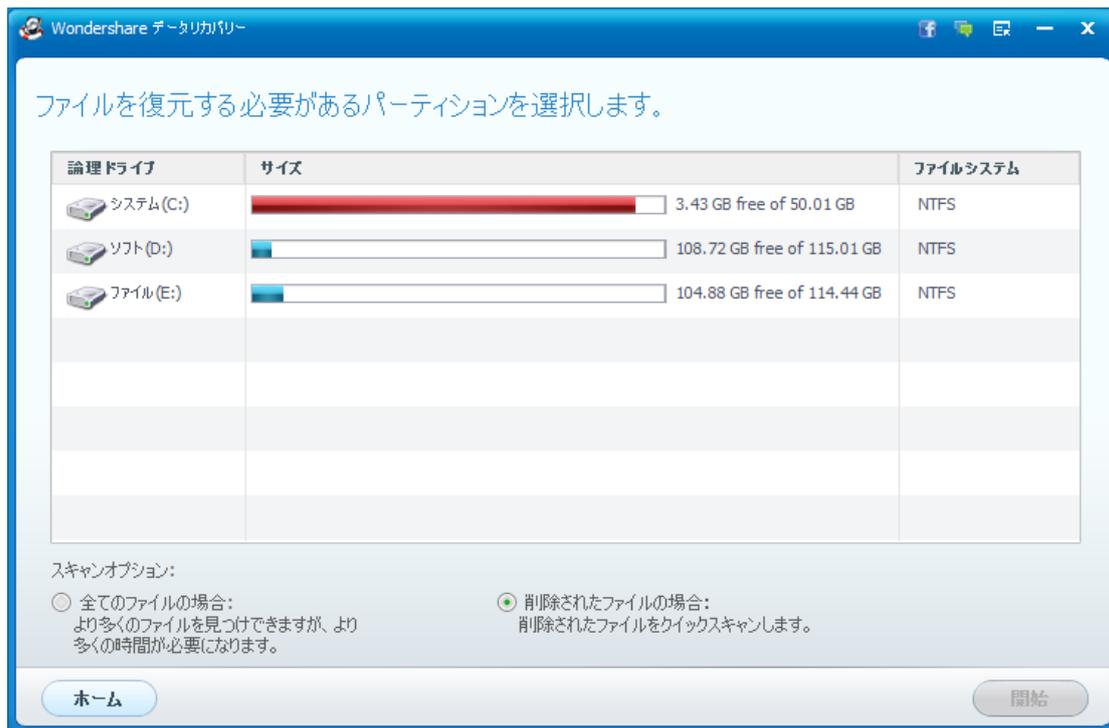
### 3、Raw ファイルの復元

前のスキャンでは失われたファイルが検出できない場合は、「Raw ファイルの復元」がお勧めです。この機能での復元作業は非常に時間がかかり、ファイル名とパスも表示されないため、その他の場合なら、お勧めしません。



ファイルを復元する必要があるパーティションを選択します。





\*ここで、スキャンオプションを設定できます。

スキャンオプションには2つの選択肢があります。

全てのファイルの場合：

より多くのファイルを見つけることができますが、より多くの時間が必要になります。

削除されたファイルの場合：

削除されたファイルをクイックスキャンします。このオプションに設定すると、時間の節約になります。

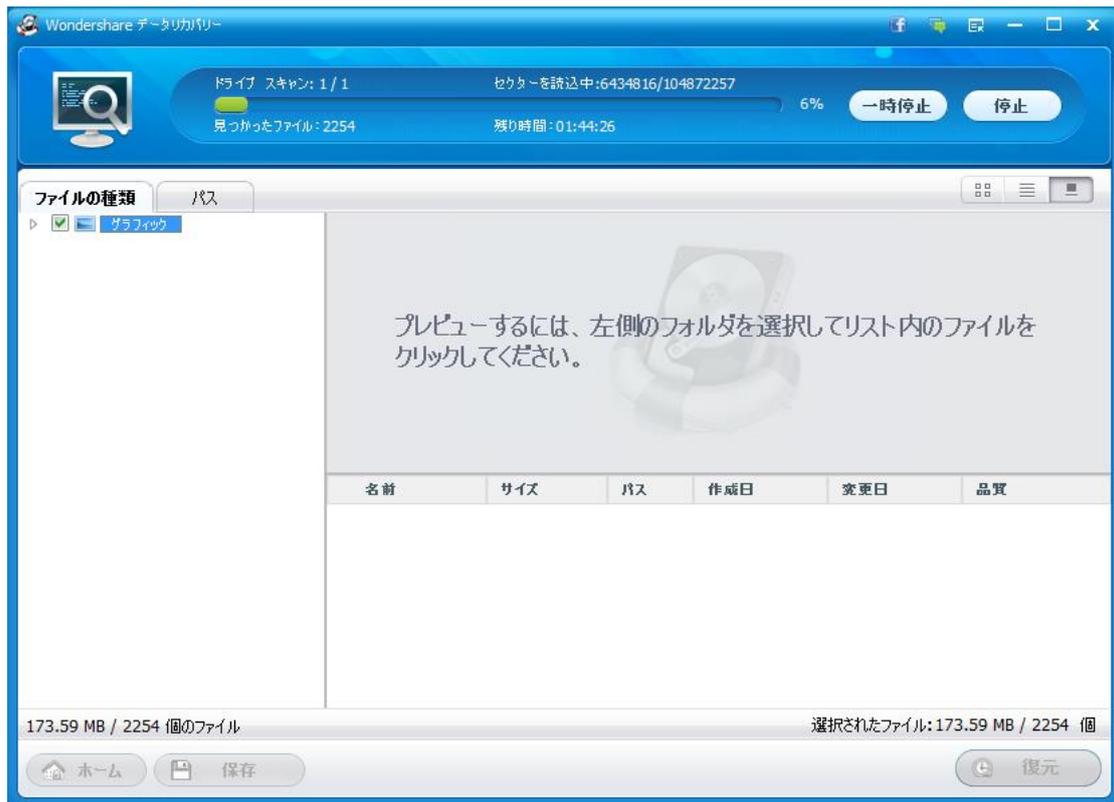
スキャンを開始する前に、スキャンオプションは選択可能です。

復元しようとするパーティションを選択して、「開始」をクリックしてください。

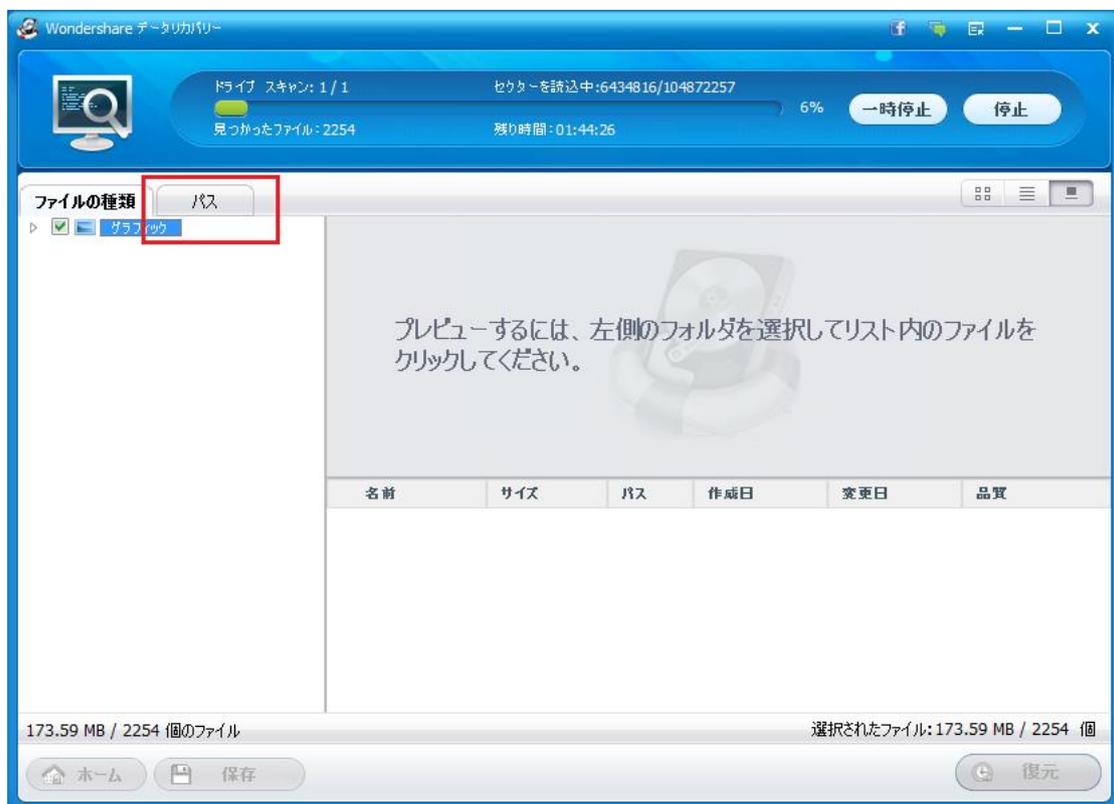


スキャンの結果がアーカイブ、オーディオ、データベース、ドキュメント、Eメール、グラフィック、ビデオなどのファイルタイプの形で表示されます。プレビュー後、復元したいファイルを選択して復元してください。復元前に、PDF、PPT、RAR、ZIP、Excel 及び画像形式（PNG、JPG、JPEG、TIF など）がプレビュー可能です。

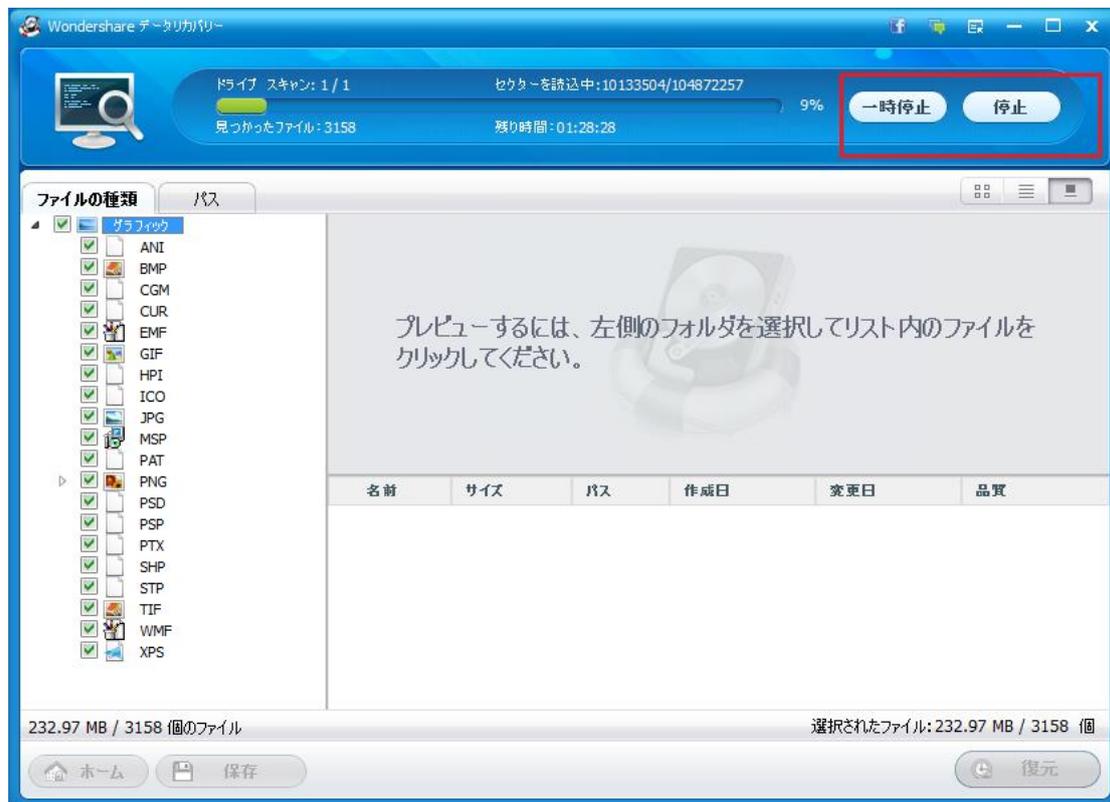
プレビューするには、左側のフォルダを選択してリスト内のファイルをクリックしてください。



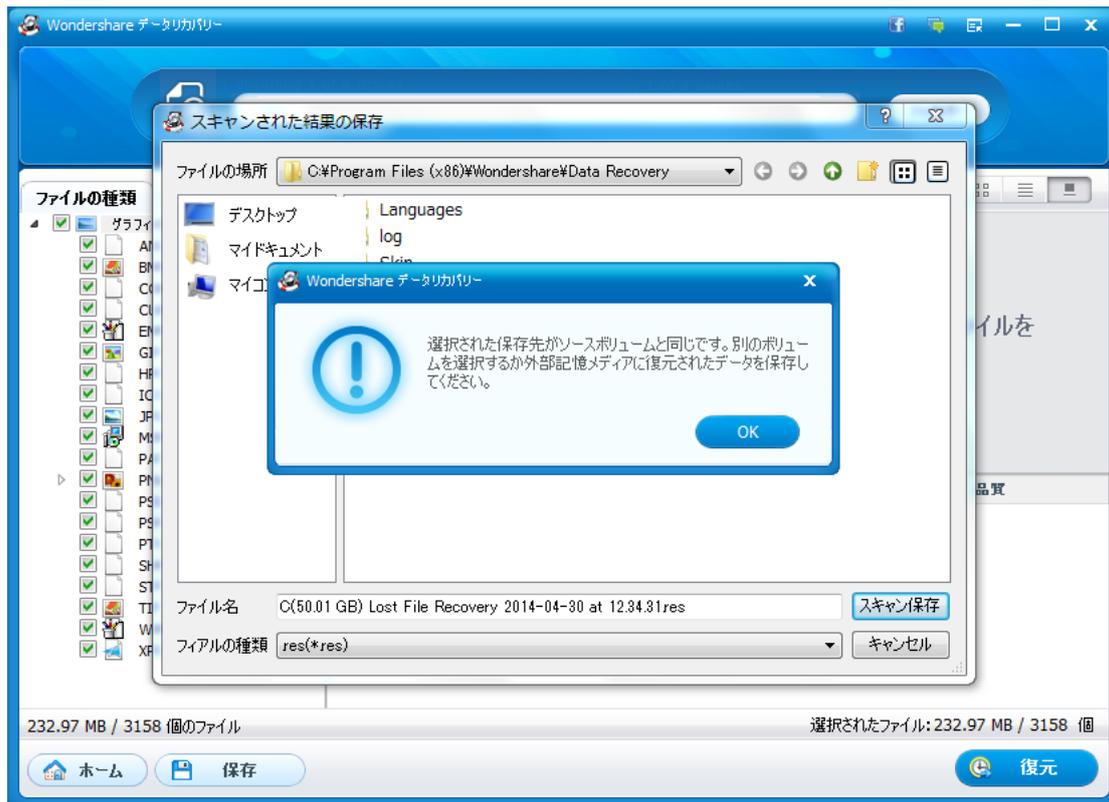
「ファイルの種類」から「パス」に切り替えることで、ファイルの前のパスをチェックすることができます。



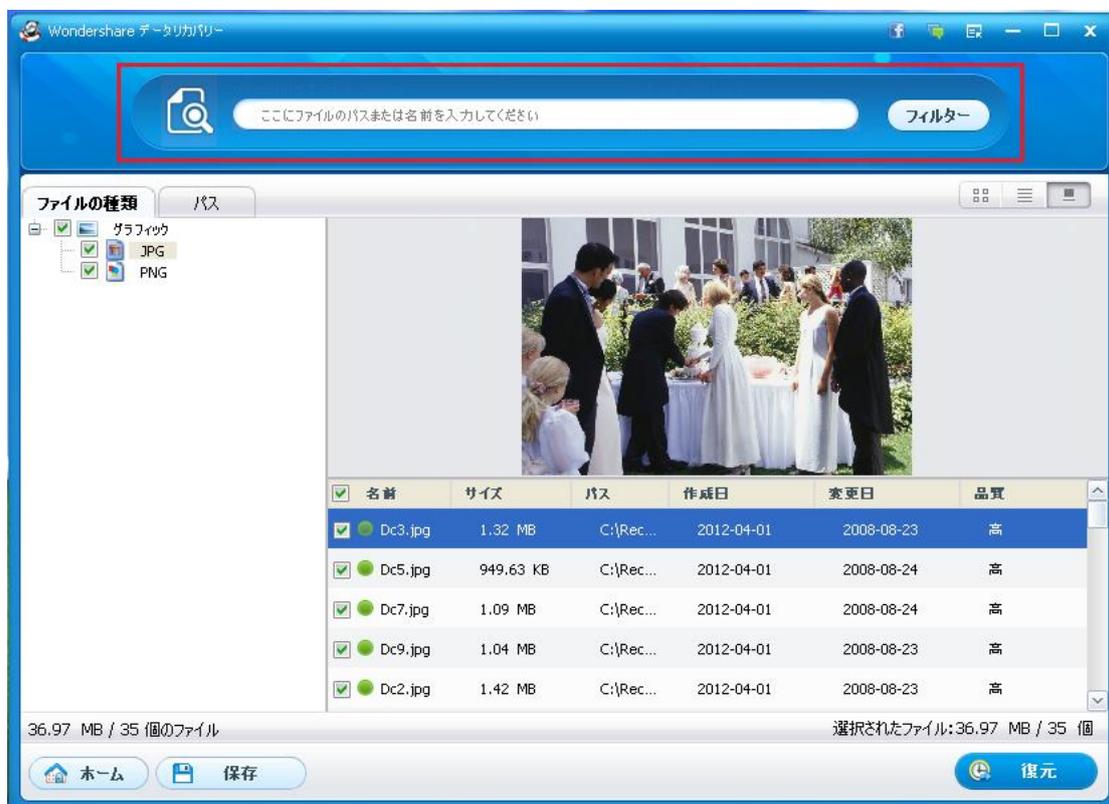
復元進行中に、ファイルをチェックすることができます。復元しようとするファイルが既に検出された場合、スキャンを一時停止して、それらのファイルをまず復元することができます。それから、「続く」を押してスキャンを進めるか、あるいは「停止」を押してスキャンを停止します。



スキャンを停止しても、後で復元を再開するためスキャン結果を保存することができます。

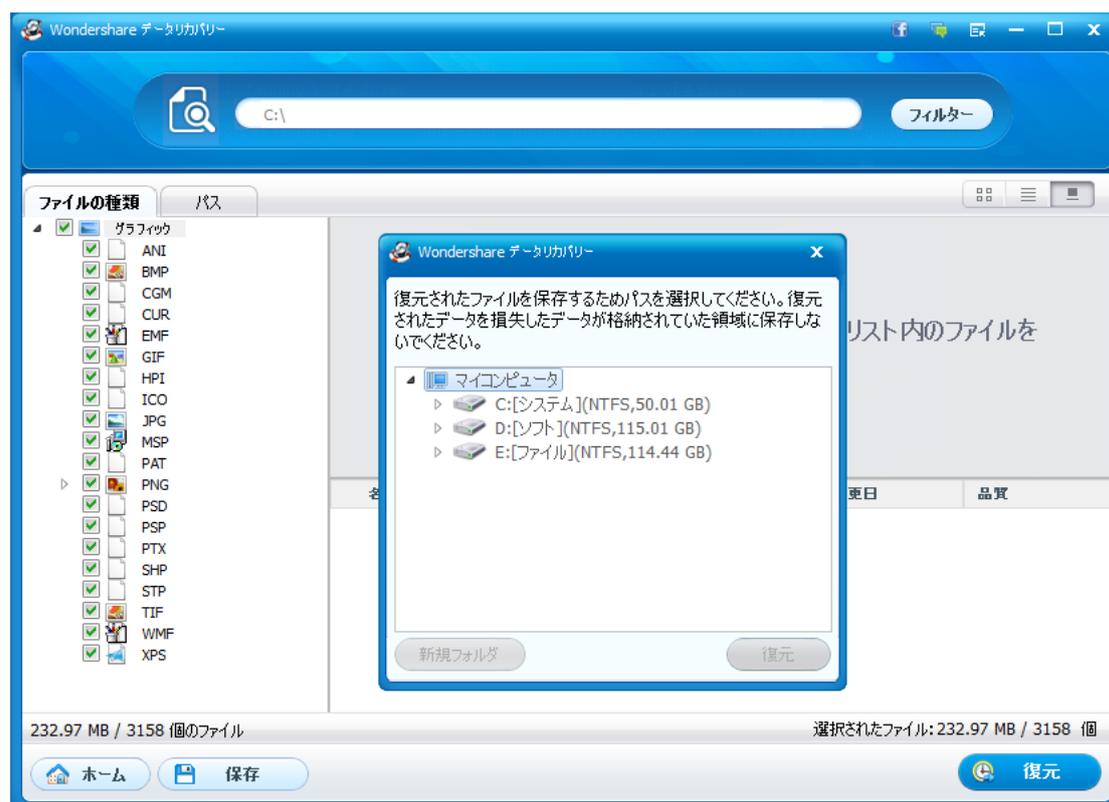


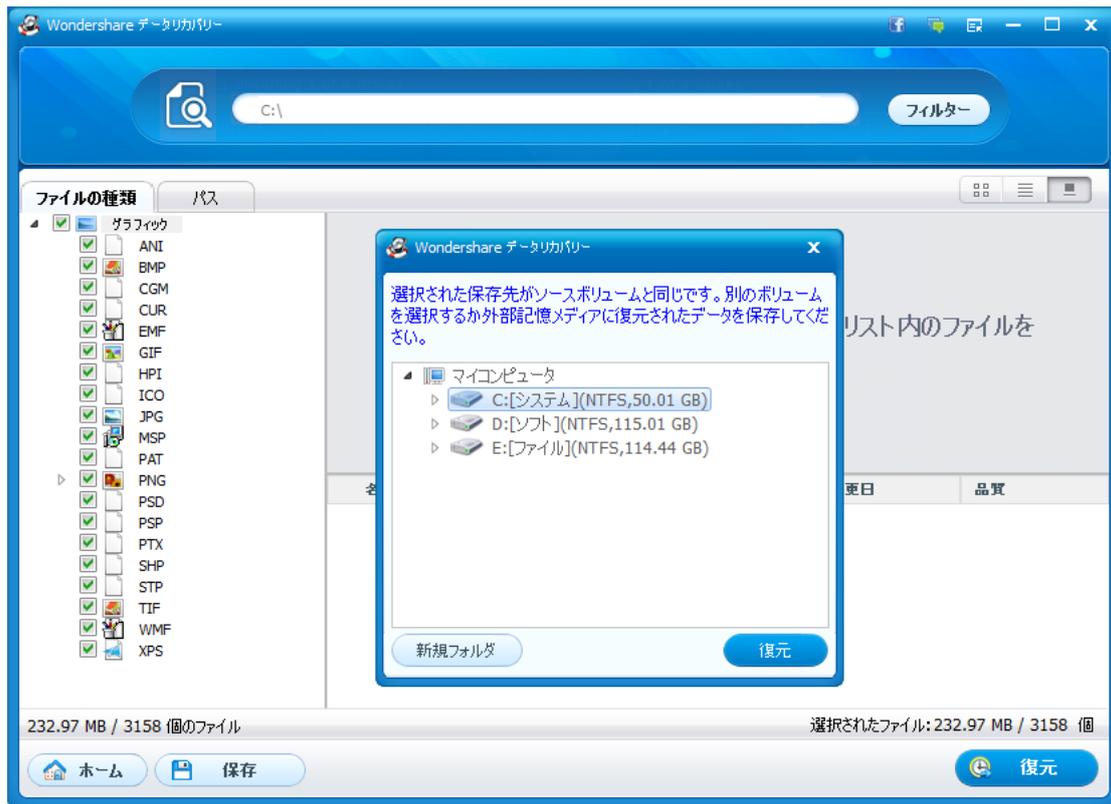
フィルター機能： ファイル名あるいはパスを検索することで、スキャンの結果にて失われたファイルをフィルターすることができます。



復元されたファイルを保存するためパスを選択してください。

注意: 復元されたデータを損失したデータが格納されていた領域に保存しないでください。その理由は、新規保存したファイルは元々のファイルデータを上書きすることにあります。選択された保存先がソースボリュームと同じ場合は、警告となります。別のボリュームを選択するか、外部記憶メディアに復元されたデータを保存してください。





復元進行中



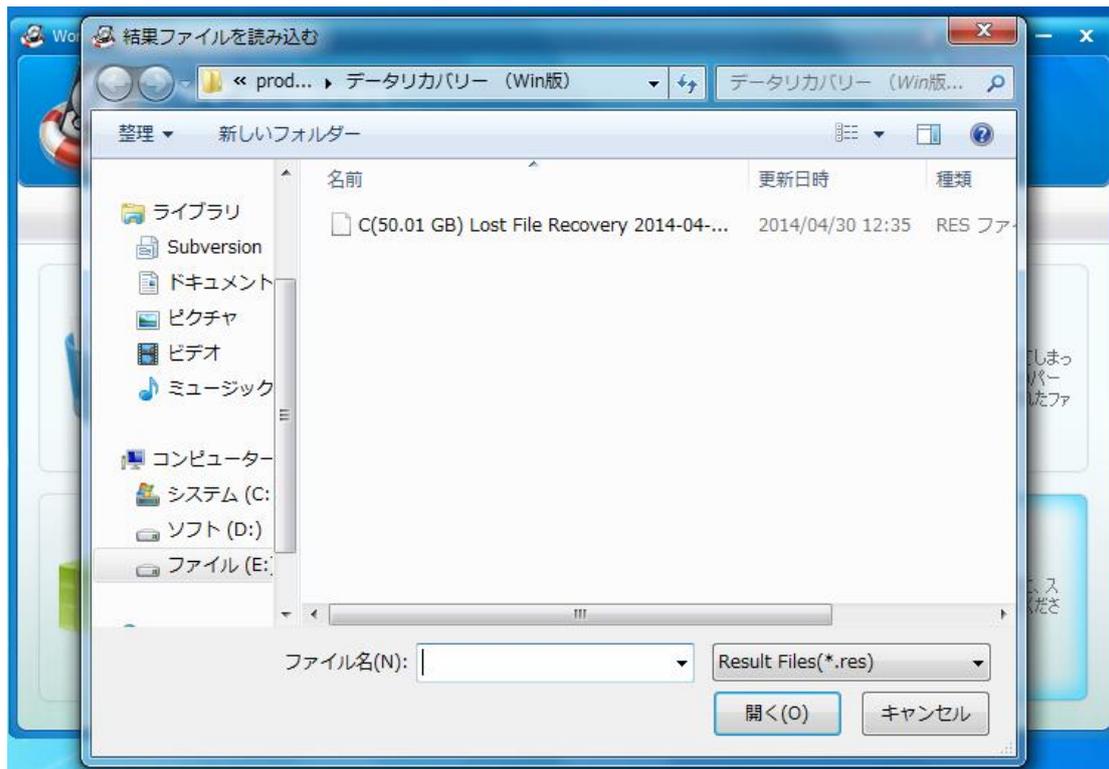
[先頭へ](#)

#### 4、復元の再開

「復元の再開」はスキャン結果の保存のための機能です。前回のリカバリーセッションを再開するには、前回保存した結果をインポートしてください。時間の節約にもなります。

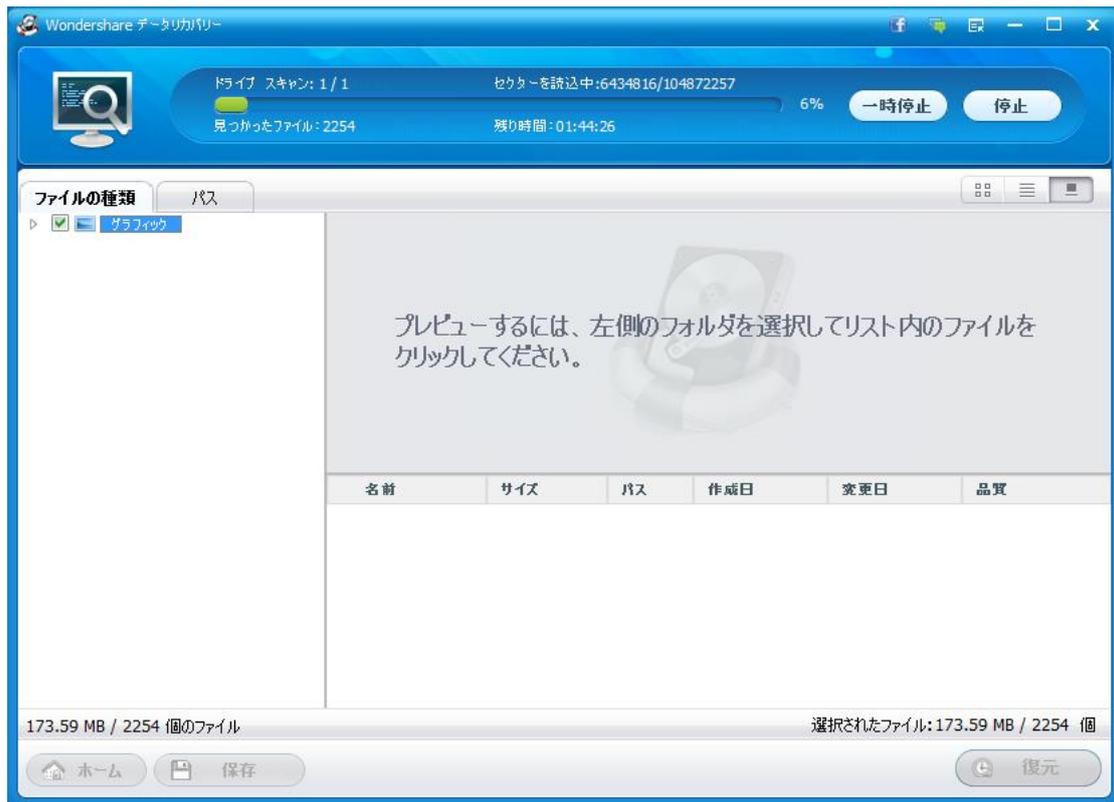


失われたファイルのスキャンを再開します。

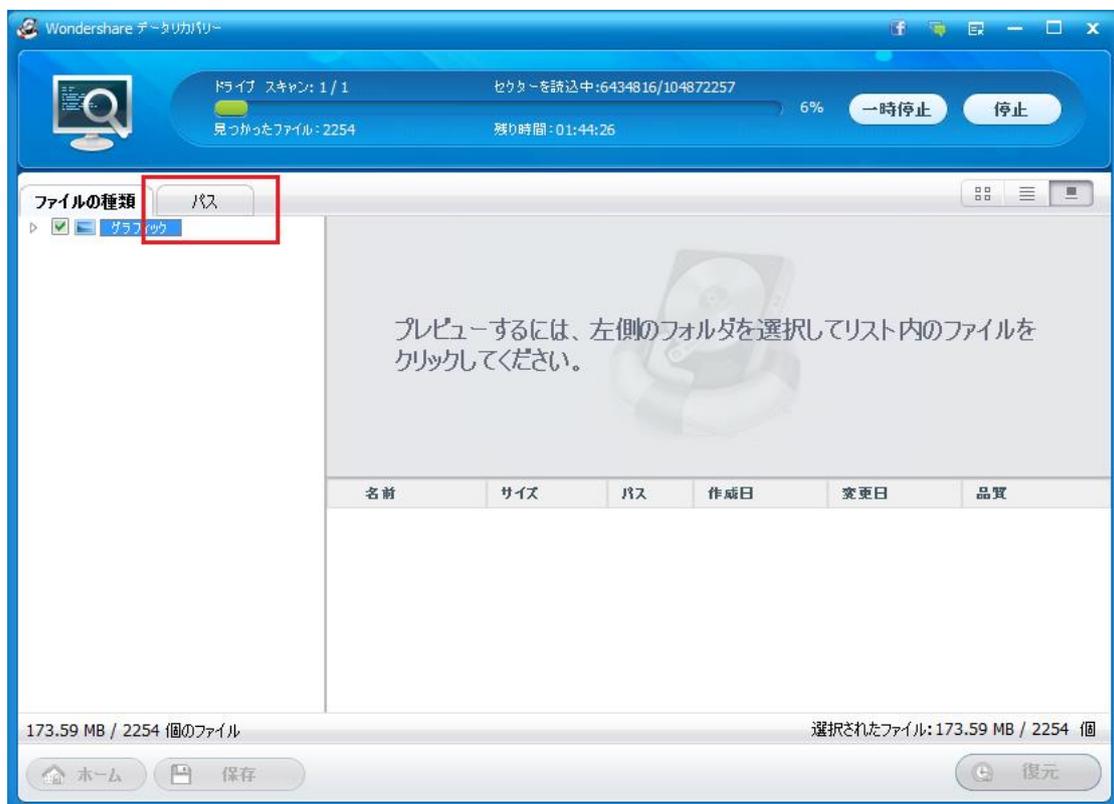


スキャンの結果がアーカイブ、オーディオ、データベース、ドキュメント、Eメール、グラフィック、ビデオなどのファイルタイプの形で表示されます。プレビュー後、復元したいファイルを選択して復元してください。復元前に、PDF、PPT、RAR、ZIP、Excel 及び画像形式（PNG、JPG、JPEG、TIF など）がプレビュー可能です。

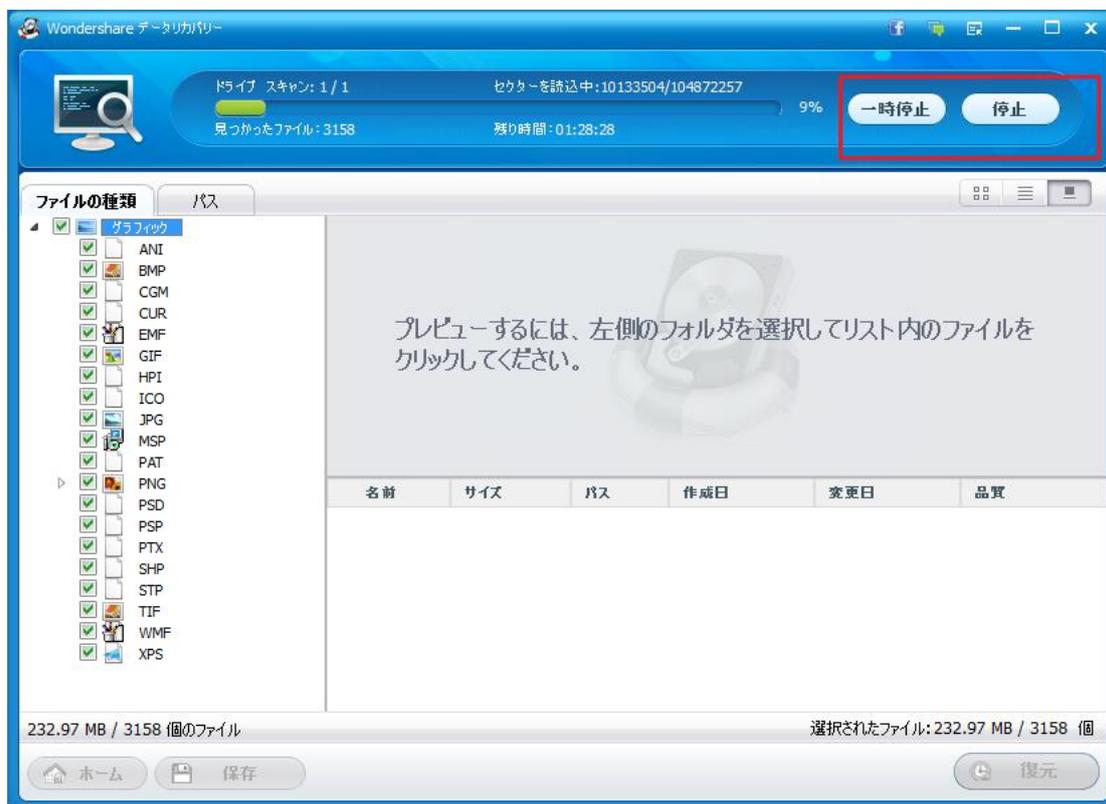
プレビューするには、左側のフォルダを選択してリスト内のファイルをクリックしてください。



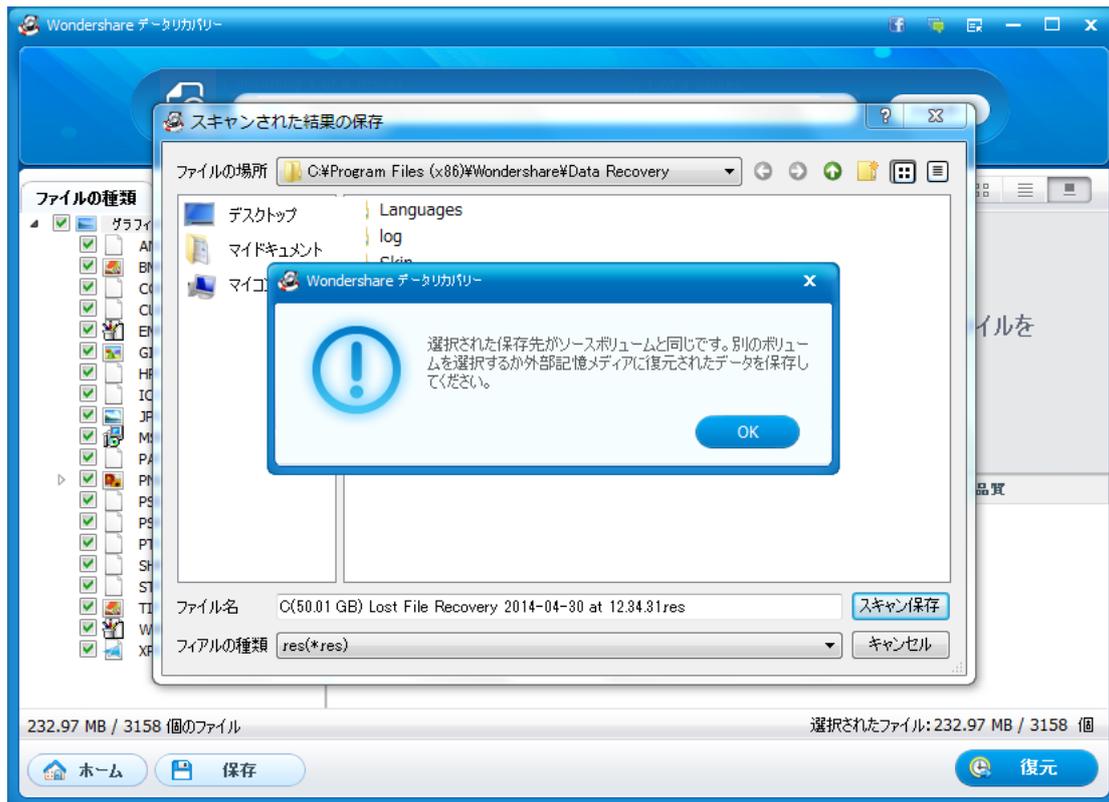
「ファイルの種類」から「パス」に切り替えることで、ファイルの前のパスをチェックすることができます。



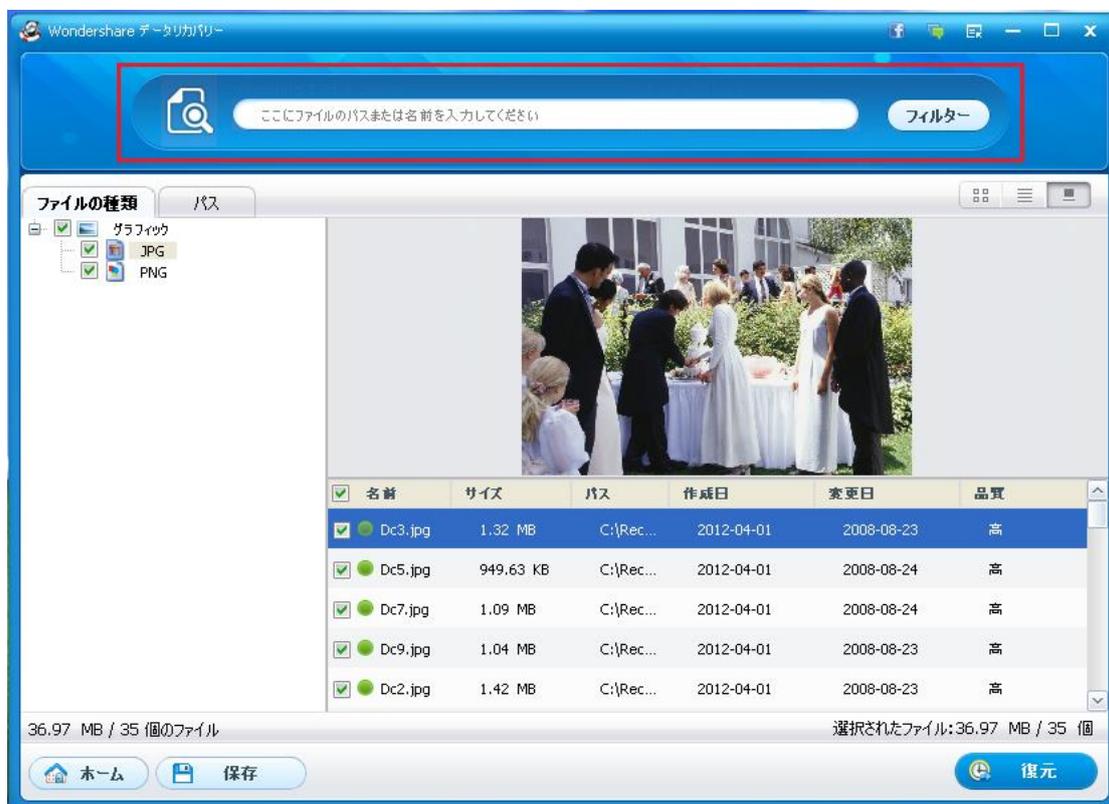
復元進行中に、ファイルをチェックすることができます。復元しようとするファイルが既に検出された場合、スキャンを一時停止して、それらのファイルをまず復元することができます。それから、「続く」を押してスキャンを進めるか、あるいは「停止」を押してスキャンを停止します。



スキャンを停止しても、後で復元を再開するためスキャン結果を保存することができます。

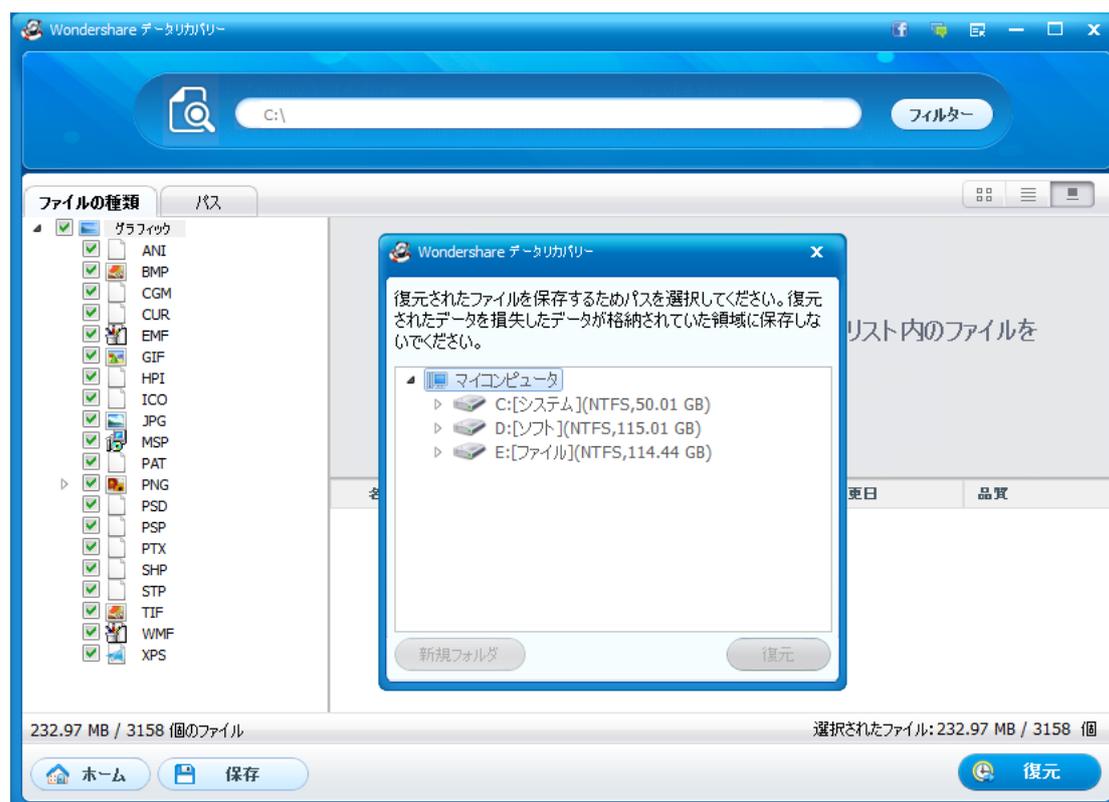


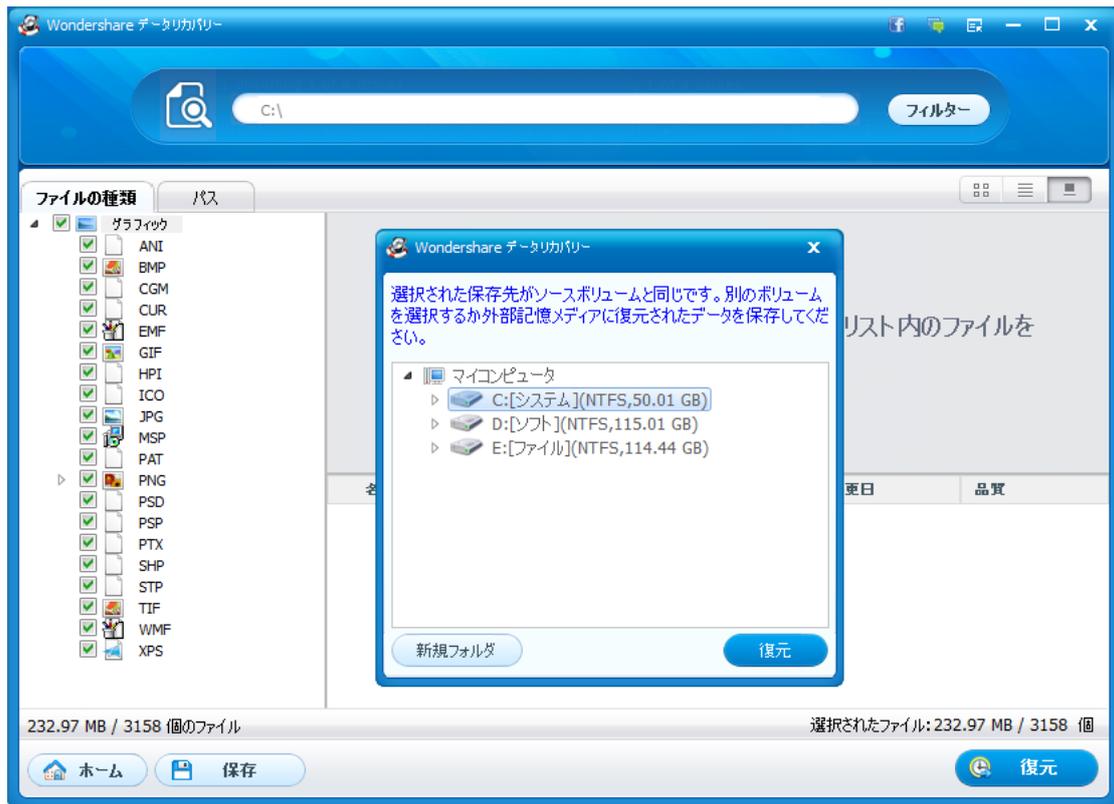
フィルター機能： ファイル名あるいはパスを検索することで、スキャンの結果にて失われたファイルをフィルターすることができます。



復元されたファイルを保存するためパスを選択してください。

注意: 復元されたデータを損失したデータが格納されていた領域に保存しないでください。その理由は、新規保存したファイルは元々のファイルデータを上書きすることにあります。選択された保存先がソースボリュームと同じ場合は、警告となります。別のボリュームを選択するか、外部記憶メディアに復元されたデータを保存してください。





復元進行中



[先頭へ](#)

ヘルプ更新：2014年5月  
©株式会社ワンダーシェアーソフトウェア